

# 音楽科学習指導案（6年）

平成26年11月7日（金曜日）第3校時 音楽室 指導者

## 1 題材名 「6年生の活動をテーマにしたふしづくりをしよう」

教材 語感を生かしたふしづくり

## 2 考察

### (1) 題材観

本題材は、以下の学習指導要領第5学年及び第6学年の内容によるものである。

#### A 表現（2）

イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

#### A 表現（3）

イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

本題材では、音楽づくりの学習において、児童に身近な題材をテーマとして、児童が発想した言葉の語感を生かしたふしづくりを行う。ふしづくりを行う際に、〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」を生かした「常時活動」を直接的な手立てとして取り入れたり、〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」を生かした「常時活動」の経験をふまえて音楽を構成したりすることで、思いや意図を生かした音楽が構成できるようになることをねらいとしている。〔共通事項〕に示された内容を手がかりにし、児童が思いや意図をもって音楽を構成することの重要性は、「はばたく群馬の指導プラン」で示されており、表現に生かすための具体的な取組を行っていくことが求められている。

今回、思いや意図を生かした音楽を構成できるようにするために、「音楽を特徴付けている要素」だけでなく、「音楽の仕組み」を取り入れた「常時活動」を、音楽づくりの直接的な手立てとして取り入れた実践を行いたい。授業導入としての「常時活動」に「音楽の仕組み」を意識した活動を取り入れることで、音楽づくりの具体的な方法を無理のない形で自然に身に付けることができるようにする。そして、音楽を構成するどの部分で何を取り入れるとどんな音楽的な効果が得られるかを、題材の学習以外のところでも意識できる音楽経験を積み重ねられるようにしたいと考えた。また、つくった音楽のよさや面白さを「記録する・伝える」ための「常時活動」として、リズムカードを活用したり音符や記号を読んだり書いたりする活動を取り入れていく。これにより、音楽に構成した自分の思いや意図を、演奏としてだけでなく再現できる楽譜としての形として残すことができ、演奏し合ったり伝え合ったりすることにつながると考えた。

このように、「常時活動」を手がかりとして身に付けた〔共通事項〕に示された内容を、どの段階でどのように取り入れるか、また、構成した音楽をどのような形で記録したり伝えたりしていくかなど、音楽づくりの一連の学習過程に見通しをもって取り組めるようにする。その中で、自らの思いや意図を音楽に構成するだけでなく、構成した音楽のよさや面白さを感じ取ったり伝え合ったりすることにつながられると考え、本題材を設定した。

### (2) 児童の実態及び指導方針（男子15名 女子19名 計34名）

#### <関心・意欲・態度>

本校の児童は明るく元気で、様々な活動にまじめに取り組むことができる。常時活動にも意欲的に取り組むことができ、カードによるリズムづくりや言葉遊びに積極的である。音符カードを生かしたふしづくりでは、積極的に語感からリズムを導き出し、それを生かしたリズム演奏に発展させるために意欲的に活動に取り組むことができる。

#### <音楽表現の創意工夫>

常時活動で行っている即興のリズム表現や言葉遊びでは、自分たちで考えた言葉をもとにして「音

楽の仕組み」を生かしたリズム表現や言葉遊びを行うことができる。しかし、取り入れた「音楽の仕組み」が醸し出す効果やそれによる面白さと表現とのつながりに意識して活動することが苦手である。また、ふしづくりよりもリズムパターンづくりや即興表現の経験の方が多く、思いや意図をどのように表現に生かすのかを考える経験は少ない。また、表現の工夫と〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」とを関連付けたり、音楽のよさや面白さを〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」に着目して説明したりすることができない。これは、思いや意図を生かして表現するための、〔共通事項〕に示された内容と音楽表現を結び付ける具体的な音楽経験が少ないことが理由として考えられる。

### ＜音楽表現の技能＞

常時活動の際に実践している音符を読んだリズム打ちは、ほとんどの児童が正確に行うことができる。また、音楽づくりの活動では、簡単なリズム遊びや問いと答えによるリズム表現など、即興で演奏したりつくったりすることができる。ふしづくりでは、単語にリズムをあてはめたり音を決めて短いふしをつくったりすることはできるが、ある程度の長さやまとまりのあるふしづくりに課題が見られる。音楽を構成する場面では、つくったふしをつなげることはできるが、問いと答えや変化・反復など「音楽の仕組み」を意識して構成することができる児童は少ない。さらに、音楽を構成していくための見通しをもつことができず、どのような手順で音楽を構成するかや、できあがった音楽の全体像を想像して音楽を構成していくかについて、意識して音楽づくりに取り組むことができない。

以上のことから、本校の実態として、「はばたく群馬の指導プラン」で挙げられた「音楽の要素を手がかりに、音楽づくりや創作をすること」に関わる「見通しをもった音楽づくりができる」の課題に相当することが分かる。

## 3 研究とのかかわり

群馬県総合教育センターの先行研究における、表現（音楽づくり）分野の課題として、知覚・感受したことを言葉で表すことや、作品を記録するための記譜や音符と関連した指導についての改善や工夫が必要であることが示されていた。また、「常時活動」については、児童の発達に応じ、段階をふんだ指導を行うことや、〔共通事項〕との具体的な関連付けが求められるということについても挙げられていた。このようなことから、音楽づくりでは、思いや意図と〔共通事項〕を関わらせた表現活動を目指し、「常時活動」に具体的に取り入れた活動を生かして、自分が表現した音楽を言葉や図、記号・音符等を使って記録したり伝えたりすることができる音楽科指導の工夫を目指したいと考えた。

## 4 題材の目標

自分の発想した言葉の語感をもとにして、音符やリズムの組み合わせと「音楽の仕組み」を生かしたふしづくり活動ができる。

## 5 指導計画（全6時間予定）

（常○：資料28ページ「音楽づくりの要素と常時活動のかかわり」参照）

評価 規 準	音楽への 関心・意欲・態度	テーマに合った言葉を想起したり、思いや意図をもってふしづくりをしたりする学習に進んで取り組もうとしている。
	音楽表現の 創意工夫	ふしの構成や組み立てなど、〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」と関連付けた工夫をし、ふしづくりにおいて自分の思いや意図をもっている。
	音楽表現の技能	語感を生かしたり「音楽の仕組み」を取り入れたりするなど、基礎的な技能を身に付けて、つくり出したふしやリズムを表現したり、音を音楽に構成したりしている。

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動 (◇評価項目と【観点】)
		活用させたい 〔共通事項〕等	思考力・表現力等 (生かす常時活動やその内容)	
第1時 第2時	課題 把握	・音符やリズム、イントネーション、発音 ・音符やリズム、イントネーション、発音、拍、音高	・児童が言葉を想起しやすい日常の事柄や行事など、身近な題材を班ごとにテーマとして設定した言葉集め。(常⑤⑥) ・リズムに変えることを視野に入れた、言葉の選択や組み合わせを考えられるようにするためのリズムづくり。(常⑯)	・学級の出来事や行事、友達のことをテーマにした言葉を集める。 ◇テーマに合った言葉を想起し、自分たちの思いや意図を言葉で表現しようとしている。【関】 ・想起した言葉を用いて、ふしにするための2小節16拍で収まる文に整える。 ◇ワークシートやイメージマップをもとに、選んだ言葉から語感を生かしたリズムを導き出し、拍に合わせたふしに構成することができる。 【技】
第3時 第4時	課題 追	・音符やリズム、拍、音高、フレーズ ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ	・想起した言葉に合わせてリズムカードを並べたり、音の高さを表すために磁石等を使った操作活動を取り入れたりすることによる音の選択。(常⑮⑰⑳) ・話し合いを通して気付いた、音楽の仕組みを生かしたリズムの組み合わせの設定。(常⑦⑧)	・言葉のイントネーションとニュアンスから音の高さを考えたりリズムを組み合わせたりにしていく。 ◇語感と音楽の要素との関わりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしをつくるかについて自分の思いや意図をもっている。【創】 ・言葉のニュアンスと「音楽の仕組み」や音楽の要素を組み合わせる工夫をしていく。 ◇音楽の仕組みや要素が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。【創】
第5時 本時	究	・音符やリズム、フレーズ、音高、問いと答え、変化、反復、続く感じ、終わる感じ	・音楽の仕組みや要素を取り入れることで、自分が意図した曲の雰囲気がふしの表現に生かしているかを確認する演奏。(常⑫⑰⑳㉑㉒㉓㉔)	・つくったふしを音に出したり、組み合わせを見直したりしながら音楽の仕組みを取り入れて構成することで、自分たちのイメージに近づけていく。 ◇自分のつくったふしを、「音楽の仕組み」を取り入れることにより、つくりたい曲のイメージに合わせて構成しなおすことができる。【創】
第6時	まとめ	・音符やリズム、拍、音高、フレーズ	・自分たちの曲のよさや面白さを伝え合い、できたふしのよさを共感し合う表現活動。	・ふしを再現可能な楽譜として班ごとに完成させ、聴き合ったり演奏し合ったりすることで、よさや面白さに気付けるようにする。 ◇音楽の仕組みや要素を取り入れた演奏を、表現したり音を音楽に構成したりしている。【技】

本時の展開 (1 / 6)

- (1) **ねらい** 学級の出来事や学校行事、友達のことをテーマにした言葉を集める。
- (2) **準備** イメージマップ ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・班ごとに設定するテーマは、児童が言葉を想起しやすい日常の事柄や学校行事など、身近な題材をいくつか用意しておく。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">                     めあて                      テーマに合わせた 言葉集めをしよう                 </div>		
<p>3 自分たちのテーマに沿って、出来事や思い出をワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会で一番頑張ったリレーで走っているときのことを歌にしたいな。</li> <li>・組み立て表現のピラミッドはつらかったけど、一番やってよかったと思ったから、これを入れたいな。</li> <li>・修学旅行のとき、みんなで歩いた鎌倉のことを歌にしたいな。</li> <li>・鎌倉の大仏はとっても大きかったし、初めて見たときびっくりしたよ。このことを歌にしたらどうだろう。</li> <li>・チャレンジスクールのキャンプファイヤーはとっても楽しかったし盛り上がったよね。歌にするならやっぱりこれしかないよ。</li> <li>・野外炊事のカレーづくりだってとってもおいしかったよ。</li> </ul> </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この題材を通して作成した歌を、卒業記念の作品として残すことを説明することで、自分たちの思い出や思いを作品に込められるように意識付けられるようにする。</li> <li>・話し合いの方法は学級活動や話し合い活動の方法に準じたやり方で行う。</li> <li>・テーマは「修学旅行」「チャレンジスクール」「運動会」「臨海学校」など、児童が経験した大きな学校行事とすることで、思い出や出来事などのイメージを発想しやすくする。</li> <li>・まず、テーマに合わせたイメージマップを作成し、それに沿って出来事を短い言葉や文として集めていく。言葉やセンテンスの中には、様子やイメージを表す擬態語・擬声語のようなものも含めていくように声かけをする。</li> </ul> <p>◎言葉や文を想起できない児童に対して、具体的な場面でどのようなことが起こったか、そのときどのように思ったかを具体的に質問することで、ワークシートの記述につなげられるようにしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">                 ◇テーマに合った言葉を想起し、自分たちの思いや意図を言葉で表現しようとしている。                  (ワークシート・発表)【関・意・態】             </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・イメージマップとワークシートの内容を確認し、次時にはそれをふしにしていくことを説明する。

本時の展開（2 / 6）

- (1) **ねらい** 想起した言葉をふしづくりに合わせた文に整える。
- (2) **準備** イメージマップ ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・自分たちで集めた言葉やイメージマップに書かれた内容をもとに、歌詞にしたい言葉を選べるようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>めあて 集めた言葉を 拍やリズムに合う言葉になおそう</p> </div>		
3 グループで集めた言葉の中から、自分でふしにしたい言葉を選び、2小節16拍に収まる言葉にする。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを黒板に提示し、具体的な例を提示して説明することで、2小節16拍がどのくらいの長さでどのような形になるかを確認できるようにする。</li> <li>・言葉を言いながら手拍子をするように指示し、枠に収まるような言葉を選べるようにしていく。</li> <li>・枠の一マス分は八分音符一つ分の長さであることを伝え、不自然対の長さが意識できるようにする。また、ふしとしての仕上がりを意識し、小節や言葉の句切りをなるべく合わせていくように伝える。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この枠に合わせるのって難しいな。</li> <li>・手拍子をしながら言葉を読んでいくと入れやすいみたいだよ。</li> <li>・様子を表す言葉ってどんなものがあるのかな？</li> <li>・かけ声や応援合戦の呼びかけなんかも様子を表す言葉になるかもしれないね。</li> <li>・びっくりしたり驚いたりした様子も言葉にできるといいな。</li> <li>・熱いとか痛いとかも気持ちや様子を表すんじゃないかな。</li> </ul> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎言葉の中に様子を表す言葉を入れられない児童には、かけ声や叫び声などの自分が発した声だけでなく、見た目の様子や動きを表す言葉、驚きや喜びなど、動きや感情も様子を表す言葉に含まれることを助言していく。</li> <li>・「ー」を使った「伸ばす言葉」を選んだ児童について、「ー」の扱いや書き方の具体的な説明を、必要に応じて全体にも行うことで、様子を表す言葉の幅を広げていけるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇イメージマップの言葉をもとにして、語感を生かしたリズムを、ふしにするための拍に合わせた文にすることができる。 (ワークシート・発表) 【技能】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・ワークシートの内容を確認し、次時には言葉にリズムや音程を付けてふしにしていくことを伝える。

本時の展開 (3 / 6)

- (1) **ねらい** 言葉のイントネーションやニュアンスから音高やリズムを考える。
- (2) **準備** ワークシート プロジェクタ 説明用ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。 (常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・前時に想起した言葉の語感を生かしたりリズムづくりと音選びを行い、自分たちのふしづくりを進めることを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>めあて 整えた言葉に リズムや音をあてはめよう</p> </div>		
3 言葉のイントネーションやニュアンスから音の高さを考えたりリズムを組み合わせてたりする。	25分	<p>◎音の高さを決めるために、イントネーションをもとにして考えられるようにするために、ペアやグループ活動を取り入れ、相談したり意見を交換したりしながら決められるような場の設定を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだリズムをワークシートに記述する際は、常時活動で使用した音符カードを縮小したものを使用することで、常時活動で行ってきたリズムづくりやリズム表現を具体的に取り入れて記述できるようなワークシートの工夫をする。</li> <li>・「ー」を使った「伸ばす言葉」を選んだ児童について、どの部分に用いるかによってリズムの形が変わることを説明し、リズムやふしに変化を付けられるようにする。</li> <li>・具体的な操作例で全体に紹介した方がいいものについては適宜紹介をし、児童が考える上での様々なヒントにしているようにしていく。</li> <li>・常時活動で経験した音符を書く活動を、ふしづくりの中に具体的に取り入れるために、ワークシートに貼り付けたミニ音符カードの音符が五線譜へ直接転記できるようにワークシートを工夫する。</li> <li>・イレギュラーなリズムが出てきた場合に備え、児童の言葉から想定されるリズムパターンを準備しておく。</li> <li>・できあがったふしを演奏する活動を取り入れ、できあがったふしを確認するだけでなく、手直ししてもよいことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇語感と音楽の要素との関わりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしをつくるかについて自分の思いや意図をもっている。 (児童の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・ワークシートの内容を確認し、次時にはリズムや音程をつけたふしに音楽の仕組みを生かしていくことを伝える。

本時の展開（４／６）＜10月31日＞

- (1) **ねらい** できあがったふしに、音楽の仕組みを取り入れて構成しよう。
- (2) **準備** ワークシート（児童用・説明用）プロジェクタ 音符カード（小）鍵盤ハーモニカ
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・ふしの中にある「様子や気持ち・声・動き」や「ふしの中で強調したい部分」をとりあげ、「音楽の仕組み」や「音楽の要素」を取り入れてふしのよさや面白さを工夫し、自分のつくったふしをふくらませていくことを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて つくったふしに込めた思いを 伝えるための工夫をしよう。</p> </div>		
3 つくったふしに〔共通事項〕に示されている「音楽の仕組み」や「音楽の要素」を取り入れて構成する。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」や「音楽の要素」を想起できるようにするために、仕組みや要素を取り入れた常時活動を再現したり、教室に掲示した音楽の仕組みや要素について確認したりする。</li> <li>・取り入れる「音楽の仕組みや要素」は変化・反復など、個人で取り入れられるもととし、具体的に常時活動で体験したものを中心とする。</li> <li>・「変化」は音やリズムを変化させること、「反復」は取り出した部分を繰り返すこととする。また、音を伸ばしたり休符を入れたりするなど、具体的に分かる例を提示し、取り入れることでどのような効果があるかについて考えられるようにしていく。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜予想される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この言葉は様子を表す言葉だよ。だから反復を使って繰り返してみよう。どんな感じになるかな？</li> <li>・この言葉の部分の音をちょっと変えてみようかな。</li> <li>・同じ言葉を繰り返すだけだと面白くないから、ちょっと言葉を変えて早口にしてみたらどんな感じになるかな。</li> <li>・早口になったらリズムが変わったよ。音符の種類を変えないとだめだね。</li> <li>・この言葉は伸ばした方が感じが出るかもしれないよ。音符の種類を変えてみよう。休符を入れてもいいかな。</li> <li>・音符の種類を変えるだけでなく、音も変えないとだめかもしれないよ。</li> </ul> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇音楽の仕組みや要素が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。 (児童の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 できあがったふしを演奏する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できあがったふしを演奏する際、ふしを確認するだけでなく、どのような工夫を取り入れ、どんな効果が聴き取れたかを確認することで、「工夫してよかった」「面白い表現にできた」という実感をもてるようにする。</li> </ul>
5 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの内容を確認し、次時には音楽の仕組みや要素を取り入れたふしを組み合わせ、音楽を構成していくことを伝える。</li> </ul>

本時の展開（5／6）＜11月7日＞

- (1) **ねらい** 自分たちの表現したいイメージに近付けるために、音楽の仕組みを取り入れて音楽を構成することができる。
- (2) **準備** 楽譜、ホワイトボード、音符カード、提示用ワークシート、プロジェクタ（教師）  
記入用ワークシート 鍵盤ハーモニカ（児童）
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しもつ。	5分	・前時に考えた「もとなるふし」と「工夫したふし」を確認し、「工夫したふし」に「問いと答え」を取り入れて、どのようにふしを構成していくか考えられるようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>めあて 音楽の仕組みを取り入れて 歌のイメージを工夫しよう。</p> </div>		
3 イメージをふくらませるために、「音楽の仕組み」を取り入れてふしを構成する。	25分	<p>・イメージとは、前時に表現の工夫をした言葉から想像できるものとする。前時につくったふしに、「問いと答え（呼びかけ・掛け合い）」を組み合わせることで、自分が考えたイメージと雰囲気や様子が音楽的な効果（強調や表現の面白さ）をさらにふくらませられるようにする。</p> <p>◎ワークシートの記入方法を伝える際、どのような方法で作業を進めていくか確認しやすくするために、書き方を示したワークシートを準備し、プロジェクタを用いて示していけるようにする。</p> <p>・「もとなるふし」はそのままの形で使うことを伝え、ワークシートに言葉と音符を記入する。その後、「工夫したふし」に「問いと答え」を追加していくことを伝え、ワークシートに記述する方法の説明をしてから活動を始める。これにより、説明の短縮と活動時間の確保ができるようにする。</p> <p>・「音楽の仕組み」は、「問いと答え」のうち「呼びかけ」や「掛け合い」とし、二人組で分担して表現できる工夫とする。その際、教室に掲示した「音楽の仕組み」に関する図入りのカードを活用することで、「音楽の仕組み」を取り入れた表現をイメージして進められるようにしていく。</p> <p>・ふしを組み合わせる際には、自分たちの思いや意図がイメージ通りに演奏に生かされているか確認するために、演奏したり聴き合ったりする場を設定する。</p> <p>・できあがったふしを実際に演奏して、気付いたことや気になった部分については適宜変更してよいことを伝え、児童の発想を生かし、操作して組み合わせたり、演奏して考えたりできるようにしていく。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜予想される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反復や変化は前の時間につくったふしに取り入れたから、今回は問いと答えが使えるね。</li> <li>・同じ言葉を「反復」してあるから、「呼びかけ」を使って、面白くしてみようかな？</li> <li>・強調したい部分はここだから、みんなで演奏できるように楽譜を書いておこう。</li> <li>・つくった人が一番分かっているはずだから、ここはどうやって吹くか教えてよ。</li> </ul> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分のつくったふしを、「音楽の仕組み」を取り入れることにより、つくりたい曲のイメージに合わせて構成するための思いや意図をもっている。 (児童の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 できたふしを発表し、聴き合う。	10分	<p>・構成したふしを確認し合い、鍵盤ハーモニカで演奏する。演奏を聴く際には語感とリズム、音の高さ、音楽の仕組みが関わり合い、どんなイメージを伝えたいと考えてつくられているかを意識して聴き合うよう伝える。</p> <p>・できたふしを聴き合う際にはお互いのふしのよさや工夫した点を賞賛し合えるような雰囲気づくりに努める。</p>

本時の展開（6／6）

- (1) **ねらい**      できあがった作品の音楽の仕組みや音楽の要素が醸し出す、よさや面白さを感じ取る。
- (2) **準備**      ワークシート   ピアニカ
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・前時にグループで完成させたふしを確認し、どの仕組みを使ってどのようにふしを構成したか、グループの発表の際に聴いている児童に伝えられるようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて 音楽の仕組みや要素の面白さを味わおう。</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返すと強調されるという、反復の効果が分かって面白かったです。</li> <li>・みんなのかけ声を表したいから、問いと答えで呼びかけにみんなで答えるイメージを表現していたところがよかったです。</li> <li>・組み合わせられていて修学旅行の楽しい感じが分かりました。</li> <li>・かけ声を繰り返すと頑張っているイメージを表現するにはぴったりだと思いました。</li> <li>・自分たちのつくったものを演奏してもらってうれしかったです。</li> </ul> </div> <p>3 演奏を聴き合う。</p>	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聴く視点は「音楽の仕組みのよさや面白さ」「音楽の要素が醸し出す音楽のよさや面白さ」とし、発表を聴き合うことでそれを感じ取ったり伝え合ったりできる場の設定を工夫する。</li> <li>・できあがった作品を他の班でも演奏できるようにする場を設定し、自分たちの作品を客観的に聴くことができるようにする。</li> </ul> <p>◎自分の担当する部分の演奏が不安な児童については、グループ内で補助や援助ができるように声かけをしていく。それでもなお演奏に不安が見られる場合には教師による補助も行うこととする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇音楽の仕組みや音楽の要素を取り入れた演奏を表現したり音を音楽に構成したりしている。 (演奏の様子・演奏方法・ワークシート)【技能】</p> </div>
4 本時のまとめと題材のまとめをする。	5分	・音楽づくりの面白さや〔共通事項〕に示された内容を取り入れた音楽のよさや面白さを、今後の音楽活動にも生かせるよう、意欲付けができるようにしていく。

# 音楽科学習指導案（2年）

平成26年11月7日（金曜日）第2校時 2年教室 指導者

## 1 題材名 「じぶんたちのだいすきな おはやしをつくろう」

教材 語感を生かしたふしづくり

## 2 考察

### (1) 題材観

本題材は、以下の学習指導要領第1学年及び第2学年の内容によるものである。

#### A 表現（2）

イ 楽曲の気分を感じ取り、思いや意図をもって演奏すること。

#### A 表現（3）

イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

本題材では、音楽づくりの学習において、児童に身近な題材をテーマとして、児童が発想した言葉の語感を生かしたふしづくりを行う。ふしづくりを行う際に、〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」を生かした「常時活動」を直接的な手立てとして取り入れたり、〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」を生かした「常時活動」の経験をふまえて音楽を構成したりすることで、思いや意図を生かした音楽が構成できるようになることをねらいとしている。〔共通事項〕に示された内容を手がかりにし、児童が思いや意図をもって音楽を構成することの重要性は、「はばたく群馬の指導プラン」で示されており、表現に生かすための具体的な取組を行っていくことが求められている。

今回、思いや意図を生かした音楽を構成できるようにするために、「音楽を特徴付けている要素」だけでなく、「音楽の仕組み」を取り入れた「常時活動」を、音楽づくりの直接的な手立てとして取り入れた実践を行いたい。授業導入としての「常時活動」に「音楽の仕組み」を意識した活動を取り入れることで、音楽づくりの具体的な方法を無理のない形で自然に身に付けることができるようにする。そして、音楽を構成するどの部分で何を取り入れるとどんな音楽的な効果が得られるかを、題材の学習以外のところでも意識できる音楽経験を積み重ねられるようにしたいと考えた。また、つくった音楽のよさや面白さを「記録する・伝える」ための「常時活動」として、リズムカードを活用したり音符や記号を読んだり書いたりする活動を取り入れていく。これにより、音楽に構成した自分の思いや意図を、演奏としてだけでなく再現できる楽譜としての形として残すことができ、演奏し合ったり伝え合ったりすることにつながると考えた。

このように、「常時活動」を手がかりとして身に付けた〔共通事項〕に示された内容を、どの段階でどのように取り入れるか、また、構成した音楽をどのような形で記録したり伝えたりしていくかなど、音楽づくりの一連の学習過程に見通しをもって取り組めるようにする。その中で、自らの思いや意図を音楽に構成するだけでなく、構成した音楽のよさや面白さを感じ取ったり伝え合ったりすることにつながられると考え、本題材を設定した。

### (2) 児童の実態及び指導方針（男子10名 女子12名 計22名）

#### <関心・意欲・態度>

本校の児童は明るく元気で、様々な活動にまじめに取り組むことができる。常時活動にも意欲的に取り組むことができ、カードによるリズムづくりや、リズムをもとにした言葉遊びにも積極的な児童が多い。読譜やリズム打ちに積極的に取り組むだけでなく、活動を楽しみながら取り組もうという姿勢が見られる。

#### <音楽表現の創意工夫>

常時活動で行っている即興のリズム表現や言葉遊びでは、自分たちでつくったリズムを読んだ

り手拍子したりするだけでなく、音符の順番を入れ替えてリズムをつくり直して演奏することができる。また、反復や変化など、「音楽の仕組み」を意識した常時活動を継続する中で、それらの醸し出す音楽のよさや面白さに徐々に気付くことのできる児童が増えている。しかし、楽曲の中に含まれる「音楽の仕組み」に自分たちで気付くことや、それらを生かした表現の工夫ができるようになるまでには至っていない。これは、思いや意図を生かして表現するための、〔共通事項〕に示された内容と音楽表現を結び付ける具体的な音楽経験が少ないことが理由として考えられる。

### <音楽表現の技能>

常時活動のリズム表現では、自分たちで音符を読み、ほとんどの児童が正確に演奏できる。また、器楽合奏では模範演奏を意識し、楽譜通り正しく演奏できる児童が多い。運指についても、正しい指使いで演奏しようとして意識して取り組むことができる。しかし、楽曲を演奏するための譜読みでは、教師と一緒に譜読みをしてからでないと演奏できない児童が多く、個人で譜読みをして演奏に取り組むことは難しい。また、音楽づくりの活動では、簡単なリズム遊びや問いと答えによるリズム表現など、即興で演奏したりつくったりすることに大変意欲的であるが、自分でつくった音楽の中に「音楽の仕組み」を意識して取り入れることは難しく、取り入れる部分と取り入れる「音楽の仕組み」を指定しなければ、教師が意図した「音楽の仕組み」を取り入れることができない。

以上のことから、本校の実態として、「はばたく群馬の指導プラン」で挙げられた「音楽の要素を手がかりに、音楽づくりや創作をすること」にかかわる「楽しく音遊びや簡単な音楽づくりができる」の課題に相当することが分かる。

## 3 研究とのかかわり

群馬県総合教育センターの先行研究における、表現（音楽づくり）分野の課題として、知覚・感受したことを言葉で表すことや、作品を記録するための記譜や音符と関連した指導についての改善や工夫が必要であることが示されていた。また、「常時活動」については、児童の発達に応じ、段階をふんだ指導を行うことや、〔共通事項〕との具体的な関連付けが求められるということについても挙げられていた。このようなことから、音楽づくりでは、思いや意図と〔共通事項〕をかかわらせた表現活動を目指し、「常時活動」に具体的に取り入れた活動を生かして、自分が表現した音楽を言葉や図、記号・音符等を使って記録したり伝えたりすることができる音楽科指導の工夫を目指したいと考えた。

## 4 題材の目標

自分の発想した言葉の語感をもとにして、音符やリズムの組み合わせと「音楽の仕組み」を生かしたふしづくり活動ができる。

## 5 指導計画（全6時間予定）

（常○：資料28ページ「音楽づくりの要素と常時活動のかかわり」参照）

評価 規 準	音楽への 関心・意欲・態度	テーマから発想した言葉に合わせたリズムの組み合わせを考え、思いや意図をもってふしづくりの学習に取り組もうとしている。		
	音楽表現の 創意工夫	リズムや音の構成に、〔共通事項〕の音楽の仕組みを関連付けて工夫し、ふしづくりにおいて自分の思いや意図をもっている。		
	音楽表現の技能	語感やリズムの特徴に気付いたり、音楽の仕組みを生かしたりして、音を音楽にしている。		
時 間	過 程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい 〔共通事項〕等	思考力・表現力等 (生かす常時活動やその内容)	
第1時	課	・音符やリズム、 音色	・八分音符と四分音符の特徴について考えたり、使う楽器の音色の特徴を生かしたりする	・自分の好きな楽器を選び、例示された「おはやしのリズム」を演奏する。 ◇自分の好きな楽器や音色を選び、おは

第2時	題 把 握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音符やリズム、イントネーション</li> <li>・音符やリズム、拍、音高、フレーズ</li> </ul>	<p>演奏。(常④⑤⑥)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を想起しやすい身近なテーマにそって発想した、リズムパターンの想起。(常⑨⑩)</li> <li>・語感を生かした音符の選択と、操作活動を取り入れることによるリズムの組み合わせ。また、グループでの話し合いを生かした演奏や表現活動。(常⑪⑫)</li> </ul>	<p>やしを演奏しようとしている。【関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おはやしにするための1小節4拍になる言葉を考え、手拍子で表現し、組み合わせる。</li> </ul> <p>◇リズムや音の構成に〔共通事項〕の要素を関連付けて工夫し、おはやしづくりに思いや意図をもっている。【創】</p>
第3時		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音符やリズム、拍、発音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まつりのおはやし」にふさわしい音を使った音の選択とそれを生かした演奏や表現活動。(常④⑤⑥⑨)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組み合わせたリズムに「ド・レ・ファ」をあてはめ、つくったふしを演奏する。</li> </ul> <p>◇完成した楽譜を見ながら、拍の流れに乗って楽器を演奏したり、リズム打ちをしたりすることができる。【技】</p>
第4時	課 題 追	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音符やリズム、拍、音高、フレーズ、問いと答え、変化、反復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時活動で経験した「問いと答え（呼びかけ）」を取り入れた「音楽の仕組み」による音楽の構成。(常⑤⑥⑦⑧⑨)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちでつくったおはやしを演奏を音楽の仕組みを使って工夫することができる。</li> </ul> <p>◇自分たちのつくったふしを組み合わせた演奏が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。【創】</p>
第5時	究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音符やリズム、拍、音高、フレーズ、問いと答え、変化、反復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時活動で経験した「問いと答え（対照）」を取り入れた「音楽の仕組み」による音楽の構成。(常⑤⑥⑦⑧⑨)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちでつくったおはよしの演奏を音楽の仕組みを使って工夫することができる。</li> </ul> <p>◇自分たちのつくったふしに取り入れた仕組みが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。【創】</p>
第6時	ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音符やリズム音高、問いと答え、変化、反復、強弱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できた楽譜を演奏したり聴き合ったりする活動を取り入れることによる、よさや面白さを伝え合ったり共感し合ったりできる活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはやしを演奏したり聴き合ったりすることで、表現のよさや面白さを感じ取ろうとしている。</li> </ul> <p>◇自分たちで構成したおはやしを見ながら、拍の流れに乗って楽器を演奏したりリズム打ちしたりできる。【関】</p>

本時の展開（1／6）

- (1) **ねらい** 自分の好きな楽器を使って、もともになるおはやしを演奏する。  
 (2) **準備** 教科書・タンバリン・すず・カスタネットなど  
 (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本題材と本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・本題材では、おまつりで演奏されるおはやしを、自分たちで考えていくことを伝える。その際、自分たちの好きなものをおはやしにすることを伝え、意欲付けにつながるような導入の話をする。
<p>めあて がっきをつかって おはやしを えんそうしよう。</p>		
<p>3 基本のおはやしを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を読む。</li> <li>・楽器を選んで演奏する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おはやしのリズムって、いつもやってるリズム遊びと変わらないから分かりやすいね。</li> <li>・ンタ（八分休符）の入ったリズムはどうやって手拍子したらいいのかな？</li> <li>・タンバリンはシャラララって鳴らすと長い音になるよ。</li> <li>・トライアングルもさわったままたたくと短い音になるね。</li> <li>・木の楽器と鉄の楽器の音が混ざるとおもしろい音になるね。</li> </ul> </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは基本となるおはやしの部分を演奏できるようにすることを伝える。</li> <li>・楽譜を読むだけでなく CD の模範演奏を聴くことで、全体のイメージをとらえられるようにする。</li> <li>・楽譜を読む際には、リズムを読む・手拍子する、といった常時活動で体験したリズム読みの手順を生かして行えるよう声かけをする。</li> <li>◎おはやしの譜読みが難しい児童には、教師が具体的な手拍子の模範演奏をしてみせることで理解できるようにし、一緒にリズム演奏を手伝えるように机間指導を行えるようにする。</li> <li>・グループで楽器を選ぶ際には、音色や楽器の種類を「長い音・短い音」「鉄の楽器・木の楽器」などの種類に分けておくことで、同じ種類の楽器をグループで使わないように工夫できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分の好きな楽器や音色を選び、おはやしを演奏しようとしている。 (活動の様子・発表)【関・意・態】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	10分	・全体で演奏した後、グループごとに発表を行う。発表を聴く際には、それぞれの楽器の選び方による音色の違いを聞き取れるような視点を示すことで、それぞれの発表のよさや面白さに気付けるようにする。

本時の展開 (2 / 6)

- (1) **ねらい** 自分たちのおはやしにするための 2小節4拍の言葉を考える。
- (2) **準備** ワークシート (個人)・掲示用ワークシート・拡大音符カード・児童用音符カード  
鍵盤ハーモニカ
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。</li> </ul>
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの好きなものをテーマにしたおはやしを考えるとという学習課題を伝える。その際、「○○まつり」の○○の部分は、児童に身近な「動物」「果物」など内容を想起しやすいテーマとしてグループごとに設定していく。</li> <li>・テーマの内容が重ならないよう、児童の希望を考慮しながらグループごとに設定できるように工夫する。</li> </ul>
<p>めあて じぶんの おはやしの ことばやリズムを 考えよう。</p>		
<p>3 自分のおはやしを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは「くだもの」だから「いちご」にしよう。でも、マスが余っちゃうからどうしたらいいのかな。</li> <li>・いろいろな言葉を入れられるから、「あまいぞ」って入れてみたらどうかな？</li> <li>・言葉に合わせて手拍子するのは、いつもやっているリズム遊びと同じだからとっても簡単だね。</li> </ul> </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2小節4拍到収まる言葉を考えられるようなワークシートを準備しておくことで、おはやしの拍を超えないようなリズムが想起できるようにしていく。</li> <li>・テーマに設定されているものの名前だけで言葉を考えるだけでなく、そのもののイメージや好き・嫌い、味や色など、様々な言葉を組み合わせることにより、言葉やリズムのバリエーションが広がるようにしていく。</li> <li>・想起した言葉に合ったリズムを手拍子する際、常時活動で行ったリズム表現を具体的に取り入れて考えられるようにすることで、想起したリズムをワークシートに音符カードを使って表現できるようにしていく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇リズムの構成に言葉のリズムを関連付けて工夫し、おはやしづくりに思いや意図をもっている。 (学習の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表児童の作品を聴き、リズムや言葉の面白さを感じられるようにする。次回は個人の作品をグループでまとめて一つの作品に仕上げていくことを伝える。</li> </ul>

本時の展開 (3 / 6)

- (1) **ねらい** 自分のおはやしに音をあてはめて、演奏することができる。
- (2) **準備** ワークシート (個人)・拡大譜  
鍵盤ハーモニカ

(3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・前時に作成した自分のおはやしに「ド・レ・ファ」の音をあてはめ、おまつりのおはやしをつくることを説明する。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて 自分のおはやしに音をあてはめて ふしをえんそうしよう。</p> </div>		
<p>3 おはやしの音をあてはめて演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音を選ぶだけだから、難しくないけど、三つ全部の音を使うからよく考えないとね。</li> <li>・同じリズムなのに言葉が違っておもしろいね。</li> <li>・「ド」「レ」「ファ」の3音しか使っていないのに、いろいろなふしができていておもしろいね。</li> <li>・そのリズムはこうたたくんだよ。でも、なんだかおかしいと思うからちょっと変えてもいいかな？</li> </ul> </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できたおはやしのリズムに音をあてはめる際、「ド」「レ」「ファ」の3音に限定することで、楽譜が複雑になりすぎることを防ぎ、児童の演奏可能な楽譜にするだけでなく、おはやしの雰囲気が感じ取れる音階を使えるようにする。</li> <li>・音をあてはめる際は即興でよいことや、演奏してみても難しかったりおかしく感じたりした場合には訂正してもよいことを伝え、を伝え、児童の発想を十分に生かせるようにする。その際、ふしが単純になることを防ぐために、同じ音を3回続けることがないように伝える。</li> <li>・できあがったおはやしを実際に通して演奏できるように、練習する場を設定する。演奏を聴き合う際には、グループ内で教え合ったり聴き合ったりできるようにし、協力し合える雰囲気づくりに努める。</li> <li>・演奏してみて直したいと感じた児童には、ワークシートの上に音符カードを重ねて張ることで訂正していくことを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇完成した楽譜を見ながら、拍の流れに乗ってつくったふしを演奏したり、リズム打ちをしたりすることができる。 (発表・演奏の様子)【技能】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・代表児童の作品を聴き、リズムや言葉の面白さを感じられるようにする。次回は個人の作品をグループでまとめて一つの作品に仕上げていくことを伝える。

本時の展開（４／６）

- (1) **ねらい** 自分たちのおはやしを組み合わせ、演奏を工夫できる。  
 (2) **準備** ワークシート（個人）・拡大譜  
 鍵盤ハーモニカ・タンバリン・カスタネット

(3)

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・教科書に例示されているおはやしの間に、自分たちでつくったおはやしを並べ、演奏の仕方を工夫することを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて つくったおはやしの くみあわせ方ををかんがえよう。</p> </div>		
3 それぞれがつくったおはやしを並べ、おはやしの構成を考える。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>&lt;予想される児童の反応&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばのおはやしと楽器と一緒に演奏すると難しいな。</li> <li>・リズムを楽器で演奏するのはいつものリズム遊びと同じだからすぐできるよ。</li> <li>・みんなでつなげて演奏するとおもしろいけど、途中で途切れないように演奏するのは難しいなあ。</li> </ul> </div>	25分	・自分たちのつくったおはやしを、「ことばのおはやし」と「音のおはやし」に分けて考えられるようにするために、ワークシートのどの部分が「ことばのおはやし」と「音のおはやし」になっているかを、拡大したワークシートを用いて説明できるようにする。 ◎ワークシートの記入方法を伝える際、どのような方法で作業を進めるか確認しやすくするために、拡大譜には教員が準備した言葉や音の例を示し、記入の仕方や組み合わせ方を示していく。 ・グループは四人（三人）とし、自分たちの作品を組み合わせるグループの作品としてまとめることを伝える。はじめに、自分のつくった作品から「ことばのおはやし」を全員分つなげて演奏するようにすることで、児童のつくった作品がグループの作品に必ず反映されるものになるようにしていく。その際、手拍子の部分を自分が選んだ楽器を用いて演奏できるよう、使う楽器を選んだり準備したりする。 ・次に、「音のおはやし」を並べて演奏する。その際、「ことばのおはやし」「音のおはやし」それぞれを演奏した感じや、演奏したときのよさや面白さを感じられるよう、演奏する際に考えることを伝えておくようにする。 ・ふしを実際に操作して組み合わせたり、演奏して考えたりできるよう、同じグループの児童と協力して活動できる場の設定を工夫する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>◇自分たちのつくったふしの組み合わせが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。(児童の様子・ワークシート)【創意工夫】</p> </div>
4 できたおはやしを発表する。	10分	・グループでできたおはやしやリズムを確認し合い、楽器や歌・鍵盤ハーモニカで演奏する。演奏は通して演奏できればよいこととし、演奏の工夫を次時に行うことを伝える。 ・演奏やおはやしのよかったところを賞賛し、次の活動への意欲付けをする。

本時の展開（5／6）

- (1) **ねらい** 自分たちのつくったおはやしの演奏を、音楽の仕組みを使って工夫できる。
- (2) **準備** ワークシート（グループ・個人）完成したワークシート・拡大譜・譜面台  
鍵盤ハーモニカ
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・教科書に例示されているおはやしの間に、自分たちでつくった「ことばのおはやし」と「音のおはやし」を並べ、演奏の仕方を工夫することを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて つくったおはやしの えんそうのしかたをくふうしよう。</p> </div>		
3 グループで決めたテーマに合わせて、おはやしを構成する。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでまとめたワークシートは、そのまま楽譜として使用できるような形にしていけるよう、児童が使った音符カードがそのまま貼り付けられる大きさのワークシートを準備しておく。</li> <li>◎ワークシートの記入方法を伝える際、どのような方法で作業を進めるか確認しやすくするために、拡大譜を用いて記入の仕方や組み合わせ方を示していく。</li> <li>・グループは四人（三人）とし、自分たちの作品を組み合わせるグループの作品としてまとめることを伝える。はじめに、自分のつくった作品から「ことばのおはやし」か「音のおはやし」のどちらかを必ず選んで使うようにすることで、児童のつくった作品がグループの作品に必ず反映されるものになるようにしていく。</li> <li>・次に、「ことばのおはやし」と「音のおはやし」を順に練習する。その際、「ことば葉のおはやし」「音のおはやし」共に二人組で演奏することとし、座席配置を工夫することで、二人のうちのどちらかの児童の作品をお互いに演奏し合えるようにする。</li> <li>・ふしを実際に操作して組み合わせたり、演奏して考えたりできるよう、同じグループの児童と協力して活動できる場の設定を工夫する。</li> <li>・自分たちで構成したおはやし完成したグループは、例として示されている前半と後半のおはやしも入れて演奏し、発表の練習をするように伝える。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;予想される児童の反応&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は鍵盤ハーモニカが得意だから、私の音のおはやしを使いたいな。</li> <li>・いつもやっているリズム遊びと同じ感じだから、とっても分かりやすいよ。</li> <li>・リズムは同じなのに言葉が違っていておもしろいね。</li> <li>・このリズムとこのリズムをつなぐと、つながりが調子よくておもしろいね。</li> </ul> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分たちのつくったふしの組み合わせが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。(児童の様子・ワークシート)【創意工夫】</p> </div>
4 できたおはやしを発表する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでできたおはやしやリズムを確認し合い、鍵盤ハーモニカで演奏する。演奏は通して演奏できればよいこととし、演奏に取り入れた工夫のよさや面白さを伝え合うのは次時であることを伝える。</li> <li>・演奏やおはやしのよかったところを賞賛し、次の活動への意欲付けをする。</li> </ul>

本時の展開（6／6）

- (1) **ねらい** できあがったおはやしの、よさや面白さを感じ取りながら聴くことができる。
- (2) **準備** ワークシート（グループ・個人）タンバリン・すず・カスタネット・譜面台  
鍵盤ハーモニカ
- (3) **展開**

児童の活動（時間） 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価）
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・自分たちのつくったおはやしのよさや面白さが伝えられるように、何処をどんな風に工夫したか伝えてから演奏するようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>めあて えんそうの よいところや おもしろいところを かんじよう。</p> </div>		
3 グループの発表を行う。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏を聴く際には言葉とリズム、音の高さがどんな関係になってつくられているか考えながら聴き合うよう伝える。</li> <li>・できたふしを聴き合う際には、自分たちが工夫した部分を紹介できるような場の設定をし、お互いのふしのよさや工夫した点を賞賛し合えるような雰囲気づくりに努める。</li> <li>・一通り発表が終わった後、グループごとに作品を交換し、演奏を聴き合う場を設定する。自分たちの作品を他のグループに演奏してもらい、客観的に聴くことで、自分たちの取り入れた音楽の仕組みにどのような効果があり、それがよさや面白さにどのようなつながっているかを感じ取りやすくしていく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分たちで構成したおはやしを見ながら、拍の流れに乗って楽器を演奏したりリズム打ちしたりしようとしている。 （児童の様子・ワークシート）【関・意・態】</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムが変わっているとことが工夫してあっておもしろかったです。</li> <li>・一人が演奏した後みんなが演奏しているので、工夫がしてあってすごいと思いました。</li> </ul> </div>		
5 本時のまとめと題材のまとめをする。	5分	・自分たちの演奏や友達の発表、自分たちの作品を演奏してもらう活動を振り返り、音楽づくりの面白さを再確認し、今後の音楽活動への意欲付けを行えるようにしていく。

めあて

テーマ

あまりなやまずに、自分の考えたことを表現してみよう。思い切ってつくってみることが大切だよ！順番に考えていけばきっと自分の作品ができあがるよ！



① 自分たちのテーマに合わせた言葉を考えよう！

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

② ことばに合わせたリズムをつかって、カードをえらんでならべてみよう！

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

③ 音の上がり下がりを考えて、「ド・レ・ミ・ファ・ソ」の音をあてはめよう！


④ リズムや音を音符に書き表してみよう！




自分で言ってみて言葉の強くなるところが上の音ぶになるよ！おかしいとおもったらなおしてもいいんだよ！

様子や気持ちを表す言葉が入ると面白いね！言葉の一部分だけをとりだして繰り返したり変化させたりするのも面白いよ。みんなで組み合わせるときに工夫してみよう！



めあて

学校行事の テーマソングをつくろう！

テーマ

# 六年生

あまりなやまずに、自分の考えたことを表現してみよう。思い切ってつくってみることが大切だよ！順番に考えていけばきっと自分の作品ができあがるよ！言葉がぬける部分は休符にしよう。◎であらわしておこう！



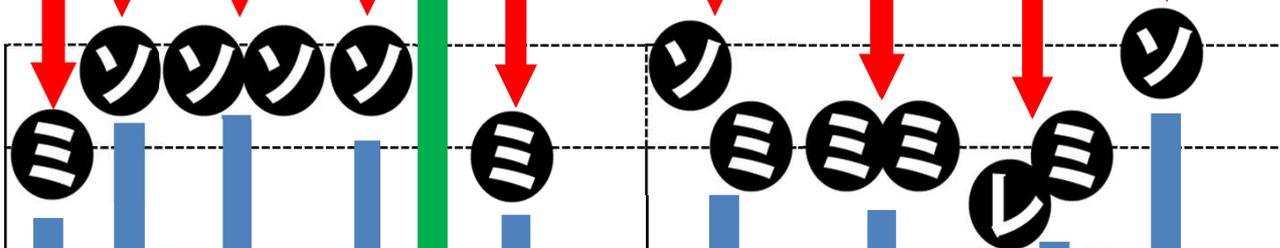
- ① 自分たちのテーマに合わせた言葉を考えよう！

たんにんはっぴょうどきどきするなー

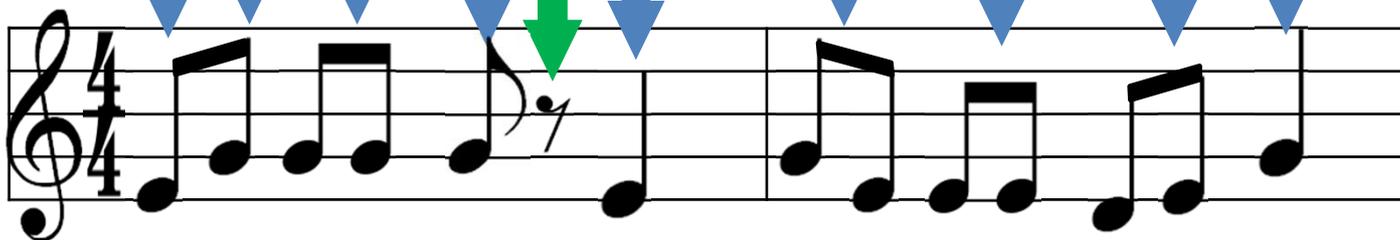
- ② ことばに合わせたリズムをつかって、カードをえらんでならべてみよう！



- ③ 音の上がり下がりを考えて、「ト・レ・ミ・ファ・ソ」の音をおてはめよう！



- ④ リズムや音高を音符に書き表してみよう！



自分で言ってみて言葉の強くなるところが上の音ぶになるよ！おかしいとおもったらなおしてもいいんだよ！

様子や気持ちを表す言葉が入ると面白いね！言葉の一部分だけをとりだして繰り返したり変化させたりするのも面白いよ。みんなで組み合わせるときに工夫してみよう！



# 学校行事のふしをつくろう！

テーマ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



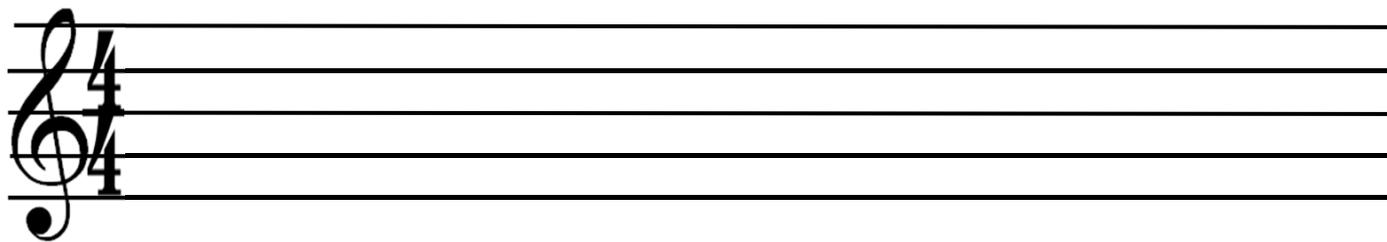
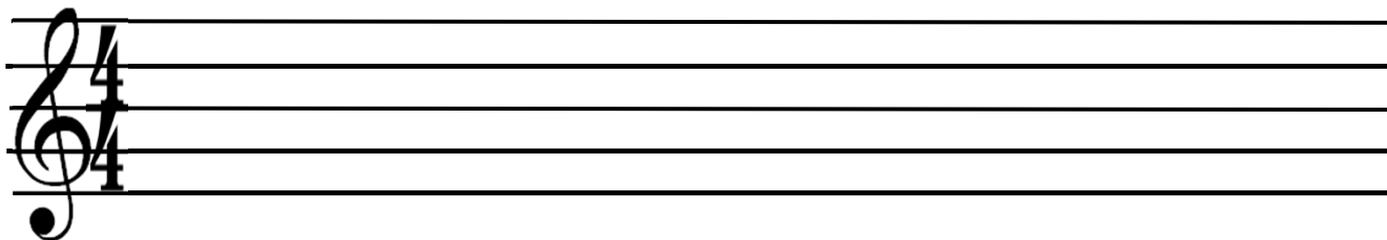
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



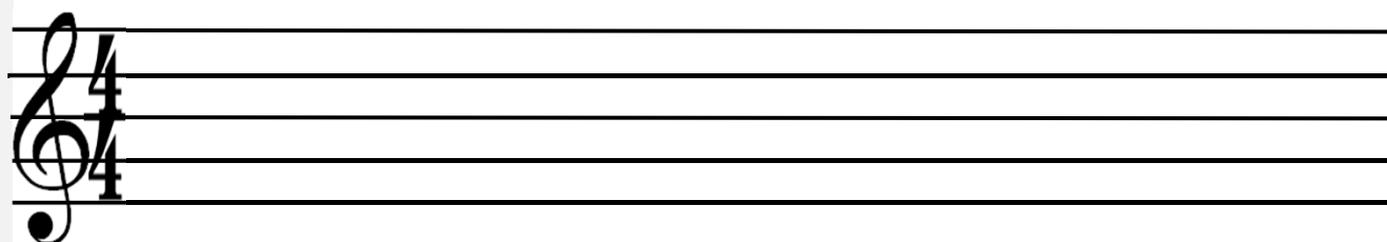
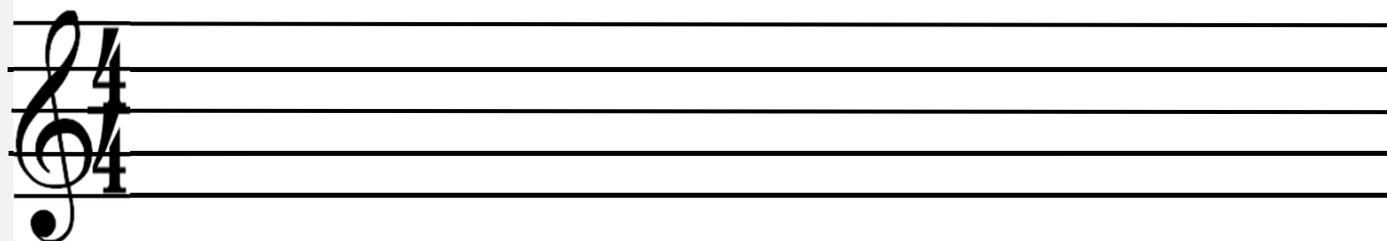
# 学校行事のふしをつくろう！

テーマ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



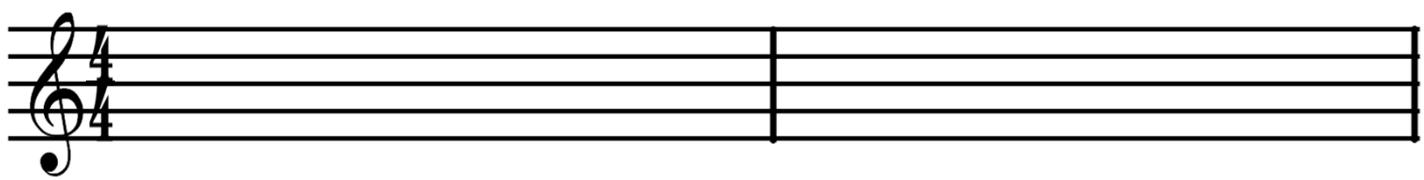
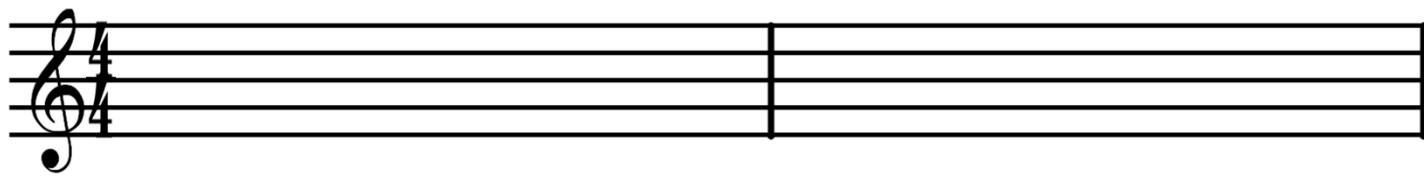
# 学校行事のふしをつくろう！

テーマ

やったー やった よううれしいなー



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--





めあて

じぶんたちのだいすきな おはやしをつくらう！

くみ ばん なまえ

- ① じぶんたちのテーマに合わせたことばを考えよう！

# まつり

ことばをのばすときは「ー」をつけてもいいんだよ！



- ② ことばに合わせたリズムをつくって、カードをえらんでならべてみよう！

いつもやってる音のカードとっしょだね！



- ③ リズムができれば、「ド・シ・ファ」の音をあてはめてみよう！

つかわない音がないようにしよう！  
同じ音を3回つづけないようにえらんでね！



めあて

じぶんたちのだいすきな おはやしをつくらう！

くみ ばん なまえ

# やさしい

# まつり

ことばをのばすときは「ー」  
をつかってもいいんだよ！

① じぶんたちのテーマに  
合わせたことばを考えよう！

ぴ

ー

ま

ん

に

ん

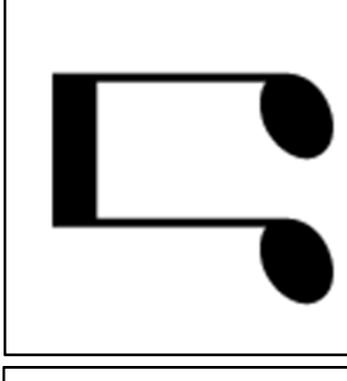
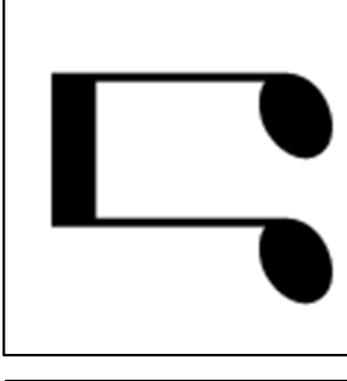
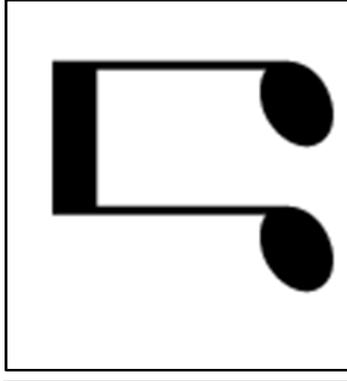
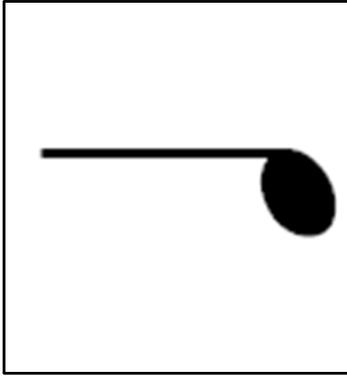
じ

ん



② ことばに合わせたリズムをつくって、カードをえらんでならべてみよう！

いつもやってる音ぶの  
カードとっていいよだね！



③ リズムができたら、「ド・レ・ファ」の音をあてはめてみよう！

つかわない音がないようにしよう！  
同じ音を3回つづけられないようにえらんでね！

ファ

ー

レ

レ

ド

レ

ファ

ファ



めあて

じぶんたちのだいすきな おはやしをつくらう！

くみ ばん なまえ

# やさしい

まつり

- ① じぶんたちのテーマに合わせたことばを考えよう！

す い か は や さ い だ

ことばに合わせたリズムをつくって、カードをえらんでならべてみよう！

リズムのあはれは 11のあはれ

♪ ♪ ♪ ♪ ♪

音のあはれは 11のあはれ

- ③ リズムができたら、「ド・レ・ファ」の音をあてはめてみよう！

ド レ ファ ド レ ド

みんなで

 ドン	 カ カ	 ドン	 カ カ	 ドン	 カ カ	 ドン	 (ウン)
---	--	---	--	---	---	---	---

リズムのおはし①

--	--	--	--	--	--	--	--

リズムのおはし②

--	--	--	--	--	--	--	--

音のおはし①

--	--	--	--	--	--	--	--

音のおはし②

--	--	--	--	--	--	--	--

みんなで

 み こ し だ	 ワッ ショイ	 (ウ) ド ドン	 ドン (ウン)
--	---	--	--

じぶんたちでつくったおはしを つなげてみようー！  
リズムにあわせて、つづけてえんそくどきまるかな？



みんなで

ドン	カ カ	ドン	カ カ	ドン	カ カ	ドン	(ウン)

① 音のおぼえ

す	い	か	は	や	さ	い	だ

② 音のおぼえ

ピ	ー	マ	ン	に	ん	じ	ん

① 音のおぼえ

ファ	ー	レ	レ	ド	レ	ファ	ファ

② 音のおぼえ

ド	レ	ファ	ファ	ド	レ	ド	ド

みんなで

み こ し だ	ワッ ショイ	(ウ) ド ドン	ドン	(ウン)



# 常時活動カードの見方

この常時活動カードは、先生方がご覧になって、活動内容や活動の際に気をつけたいこと、先生方や児童へのアドバイス、具体的な発問や予想される児童の反応などを、分かりやすくまとめてみたものです。枠の色や図の形を以下のように指定して記述してあります。内容は場面や学年、実態に応じて増やしたり減らしたりしながら、臨機応変に活用できるといいと思っています。

常時活動のめあてを設定しました。

活動の名称です。

常時活動の具体的な活動内容を紹介しています。



先生方の具体的な声かけです。



活動のためのアドバイスを紹介しています。

音楽のもと

特に関連のある  
〔共通事項〕  
関わらせやすい  
〔共通事項〕

具体的な子どもの動きを紹介しています。



子どもたちのつぶやきを  
集めました。



イラスト:wanpug

## 常時活動 ①

音楽のもと

### 速度・強弱

〈リズム・反復〉  
〈問いと答え〉

## まずは音楽遊びから！

音楽やリズムに合わせて身体を動かすことで、音楽の楽しさを味わおう！

- ・ ずいずいずっころばし
- ・ ロンドンばし
- ・ 小犬のビンゴ
- ・ おちゃらかほい

～教科書以外の題材も積極的に活用してみましよう！～

### 「速さ」や「強弱」を変えてみましょう！

- 「とってもいそがしくなった」と言うかもしれませんね。
- 「橋を渡る人が走っているみたい」と思うかもしれませんね。
- 「ロンドン橋をどんな動物が渡っているような感じがしますか？」と質問するのもいいかもしれません。
- 「その動物になりきってみましよう！」と投げかけて音楽やリズムと動きを関連させてみましよう。
- 先生がテンポをコントロールしてみます。手拍子でもいいですし、マレットを使ってみるのもいいかもしれませんね。途中で意図的に速さを変えたり、だんだん速くしたり遅くしたりしてみたらどんな感じがするか子どもたちに聞いてみましよう！
- 速い小犬？遅いのは大型犬？声の感じを変えてみたりするのもおもしろいと思いますよ！

ぜひ「速さ」「強弱」という言葉を使ってください！



## 常時活動 ②

音楽のもと

リズム  
拍の流れ  
〈速度〉

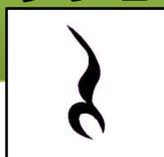
まずは音楽遊びから！

身振り・手遊びをしながら「2拍子」を感じよう！

音符カードを手掛かりにしてみましょう！

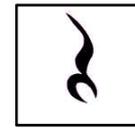
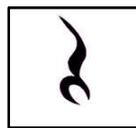
「手拍子」「アクション」のように決めます。

カードは黒板に掲示します。



### ① 1人でステップ

音楽やBGMを  
活用してみましょう！  
テンポに変化を  
付けてみましょう！



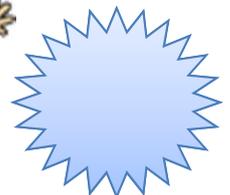
右ステップ



手拍子



左ステップ



手拍子

### ② 2人で手合わせ (グループでも)

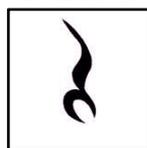
ひざ打ち



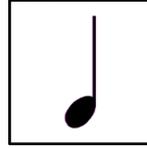
手拍子



ひざ打ち



手拍子



手拍子は片手・両手・友達と・ハイタッチなど変化を付けることができます。また、ひざ打ちのところは一人で手拍子・頭打ちなどバリエーションを増やしたり子どもたちにアイデアを聞いたりするとおもしろいです。慣れたら音譜と休符を逆にしてみましょう。

# 常時活動 ③



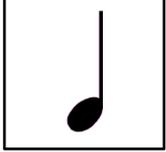
## リズム 拍の流れ 〈速度〉

まずは音楽遊びから！

身振り・手遊びをしながら「3拍子」を感じよう！

音符カードを手掛かりにしてみましょう！

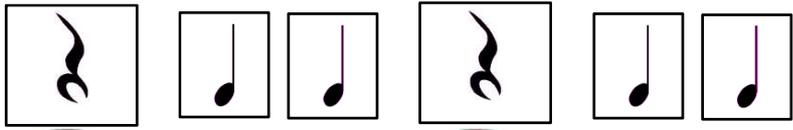
「手拍子」「アクション」のように決めます。



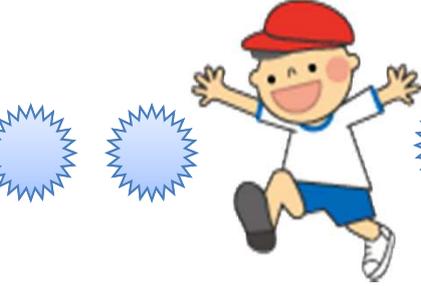
カードは黒板に掲示します。

### ① 1人でステップ

音楽やBGMを活用してみましょう！  
テンポに変化を付けてみましょう！



右ステップ



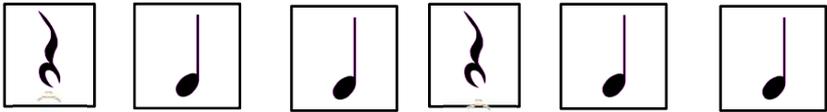
左ステップ

手拍子

手拍子

### ② 2人で手合わせ (グループでも)

ひざ打ち 手拍子 手拍子 ひざ打ち 手拍子 手拍子



三拍子は「強拍・弱拍・弱拍」の流れがあるので手拍子ばかりが意識されすぎることのないようにした方がいいでしょう。

手拍子は片手・両手・友達と・ハイタッチなど変化を付けることができます。また、ひざ打ちのところは一人で手拍子・頭打ちなどバリエーションを増やしたり子どもたちにアイデアを聞いたりするとおもしろいです。

# 常時活動 ④

音楽のもと

## リズム・音符

〈反復〉

〈問いと答え〉

カードに書かれた音符を読めるようにしましょう！

カードを使ったリズムづくり！



「タア」

と読ませます。長さを意識するためですがそのほかにもふしづくりに生かすことができるのでこれで統一しました。



「ウン」

と読ませます。言わずとしれた四分休符ですが音を出さないことも音楽だということが分かるかもしれませぬね。



「タタ」

と読ませます。八分音符が2つつながったものだという説明もしなくてははいけません。八分音符の書き方も後日指導します。

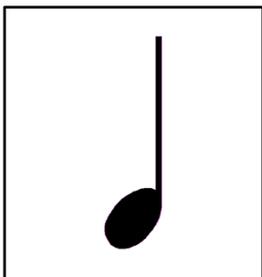
読めるようになったら2枚組み合わせせてリズムを作ってみましょう！

2枚が慣れたら4枚にして

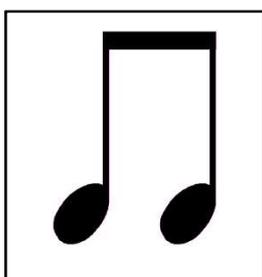
「4分の4 1小節 4拍」のリズムにします。

読めたら手拍子してみよう！

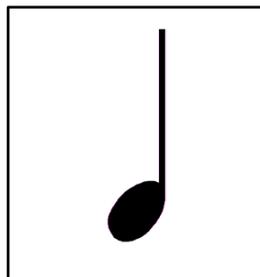
タア



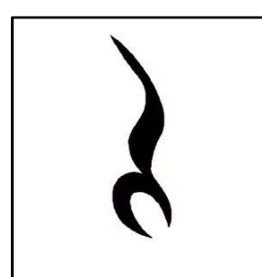
タタ



タア



ウン



# 常時活動 ⑤

音楽のもと

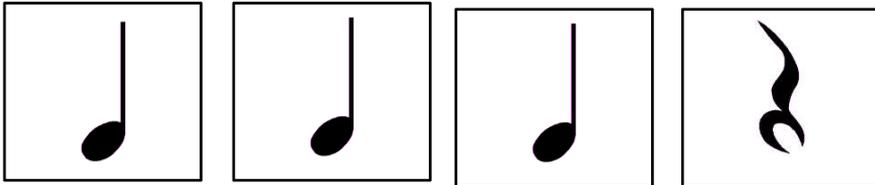
## リズム 問いと答え 〈速度〉

できあがったリズムを使った  
常時活動を工夫してみよう！

できあがったカードをうまく使って  
授業の導入をスムーズに行えるようにしてみましょう。



### テーマを決めた名前遊び



り ん ご 〰  
(みんなで) り ん ご

最後を四分休符に  
変えてしまってから  
始めると分かり  
やすいです。「食  
べ物」「動物」な  
ど、テーマを設定  
してリズムに合わ  
せて発表したり手  
拍子したりリレー  
にしたりします。

その際、四分音符は  
「タア」と読んでい  
るので伸ばす言葉に  
しても大丈夫になる  
ことを確認します。  
4文字以上の言葉を  
考えたり1拍に2文  
字入れる子どもが現  
れたりしたときが八  
分音符を教えるチャ  
ンスです！子どもた  
ちの考えたものがい  
い例になりますよ！



ソー セー ジ 〰

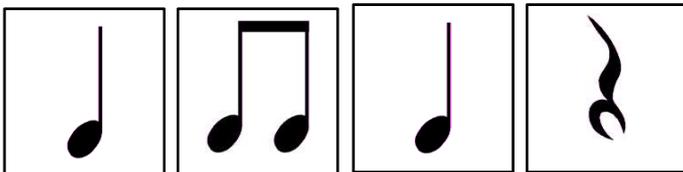
ハン バー グ 〰



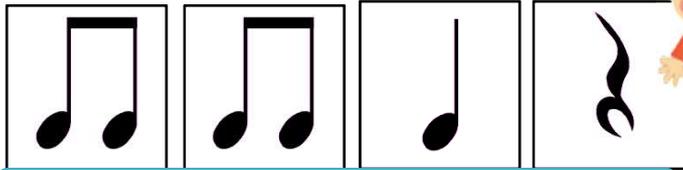
## 常時活動 ⑥

リズムを使った常時活動を発展させてみよう！

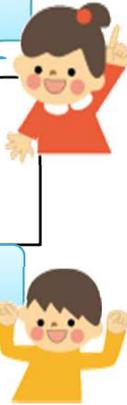
テーマを決めてやまびこ遊び



たー かぎ くん ハイ



なん です か ハイ



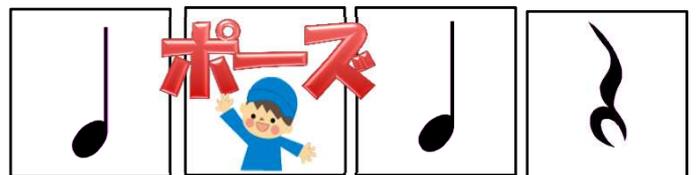
音楽のもと

# リズム 問いと答え 〈変化〉

名前遊びの続きです。名前を呼ばれた子は「はい」や「なんですか」や「げんきです」など返事を返すようにします。その際、返した言葉とリズムが合うように手拍子ができるよう指導します。即興的な反応と臨機応変な対応が楽しい活動です。

タアタア「ポーズ」ハイのタイミングで手拍子したりポーズをとったりします。主に手足の動きや拍に合わせた動きをします。その後子どもたちがマネをします。リーダーを決め、子どもたちの間で回しながらやるとおもしろいと思います。慣れたらポーズの場所を2拍目にしてもおもしろいかもしれません。

テーマを決めてまねっこ遊び



## 常時活動 ⑦

リズムを繰り返して使う  
常時活動を楽しもう！

音楽のもと

## リズム・反復 〈強弱〉

リズム遊びにはだいぶ慣れてきたところだと思いますので、活動に変化をもたせていきます。今回は〔共通事項〕の「反復」を意識するために、一人でリズムを繰り返したり、2回目は強弱の変化をつけてみたりする活動を取り入れてみます。

### リズムの繰り返し遊び



さあ今日の日直さん！  
つくったリズムを2回  
続けて、繰り返してみ  
ましょう！

二回続けるだけなら簡  
単かな？でも途中で休  
符が入ると難しいか  
も？

なかなかよくできましたよ！  
今度は1回目と2回目の強さ  
を変えてみたらどうですか？

「反復」とは、旋律やリズムの繰り返しのことです。この常時活動では、「連続で繰り返される反復」をねらっています。一人が同じリズムを繰り返すことの意味は、強弱の変化を付けたたり、強調したりすることによって気付くきっかけになることです。音楽の表現にはこのような工夫があるのだということに気付くことが重要です。代表がやるだけでなく、クラス全体で手拍子をして表現の効果についての面白さを感じ取れるようにしましょう。

## 常時活動 ⑧

リズムを繰り返して使う  
ペアの常時活動を楽しもう！

音楽のもと

リズム・反復  
〈強弱〉  
〈問いと答え〉

今回は〔共通事項〕の「反復」をさらに意識できるようにするために、2人で違うリズムを交互に繰り返したり、それぞれのリズムの強弱を変化させてみたりする活動を取り入れてみます。



### リズムの繰り返し遊び（二人組）

さあ今日の日直さん！つくったリズムを二人で交互に繰り返してみましょ！

じゃあ僕が先、君が後、二人でやるだけなら簡単かな？でも順番通りにタイミングをずらさないように続けるのは難しいかも？

おなじリズムを続けるのは面白くないから途中でリズムを変えてもいいですか？

それは面白いですね！クラスも2つのグループに分かれて、一緒にやってみましょ！ふたりのように間違えないで、交互にできるかな？

この常時活動では、「合間をおいて繰り返される反復」をねらっています。2人が同じリズムを繰り返したり、別のリズムをつなげて繰り返したりすることによって、同じリズムの連続にならないよう、合間をつくることを考え、この反復に気付くきっかけにしようと考えました。しかし、活動的には「問いと答え」に近い内容になっています。「反復」として意識出来るよう、表現や鑑賞とのかかわりをしっかりともたせていくことが重要になると思います。

## 常時活動 ⑨

音楽のもと

# リズム 問いと答え 〈変化〉

逆のパターンでリズムを使った常時活動を楽しもう！

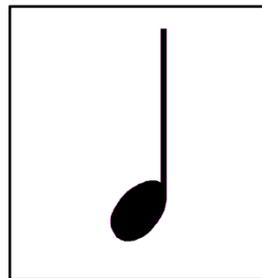
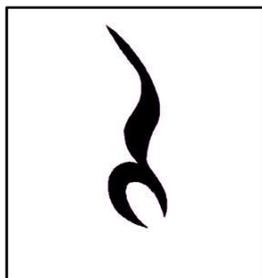
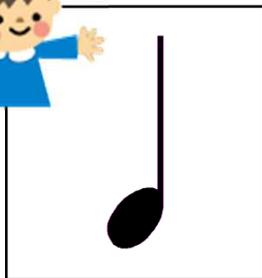
### 逆パターンのリズム遊び

先生が手拍子をしてそれを児童がカードでリズムづくりをするという、逆のパターンでリズム遊びをします。実態に合わせてやってみます。最初はリズムを言葉で言いながら手拍子をしてもいいし、みんなで考える時間を上げてもいいかもしれません。最終的なゴールは、子どもだけで手拍子にリズムカードをあてはめることができるようになることです。



さあ今日の日直さん！先生のたたいた  
リズムをつくってみてください！  
「タア・ウン・タア・タタ」

やったー！今日は日直だ！  
きょうのリズムはこれでいいですか？



合ってまーす！おもしろいなあ！  
今度の日直がたのしみだなあ！



## 常時活動 ⑩

音楽のもと

### 音色・強弱 〈拍の流れ〉

音の長さや強弱を音色とかかわらせ  
常時活動を工夫してみよう！

児童が歌を歌っているとき、どこまで声をのばせばいいか意識していますか？楽器を演奏しているとき、どこまで音をのばせばいいか意識していますか？そんな意識を高めるために少し耳を澄まして、音の長さや音の大きさについて感じられる常時活動を取り入れてみましょう！



まずは約束！



音の長さの勉強をするときは  
しずかにして耳をすまそう！

#### 音の長さを感じよう

児童に目をつぶらせます。しっかり耳をすます準備をさせましょう。オルガンを使って音をのばします。音が聞こえたら手を挙げます。音が聞こえなくなったら手を下ろします。そうすることで音の長さを感じ取ることができるようになります。

いつまで伸ばすか弾いている人しか分かりません。パッと鍵盤から指を離れた瞬間にバッと手を下ろしたら子どもたちはとっても盛り上がります。

楽器を変えたらどうなりますか？木琴のように音が出たとたんに消えてしまうものでやってみると子どもたちの反応が楽しみです。

#### 音の強弱を感じよう

同じように児童に目をつぶらせます。しっかり耳をすます準備をします。オルガンを使って音をのばします。今度は音のボリュームを上げたり下げたりしてみましょう。音が大きくなったら手を上げます。音が小さくなったら手を下げます。そうすることで音の大きさを感じ取ることができるようになります。

長さを感じることができている子は、パッと音が消えた瞬間にバッと手を下ろすでしょう。それができたらほめてあげましょう。

楽器を変えたらどうなりますか？トライアングルのように音がだんだん消えてしまうものでやってみると子どもたちの反応が楽しみです。

## 常時活動 ⑪

音楽のもと

### 音の重なり 〈リズム・フレーズ〉

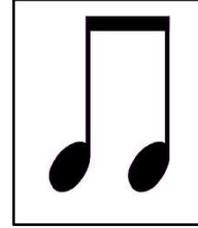
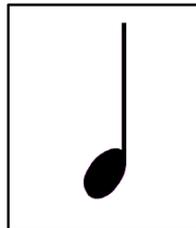
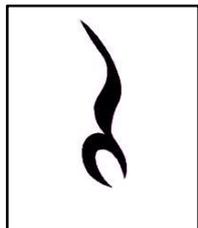
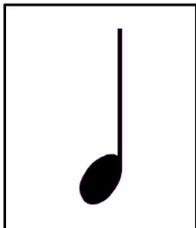
音色と音の重なりを感じ取れるような常時活動を工夫してみよう！

「音の重なり」というのは「複数の音が同時に鳴り響くことによって生まれる縦の関係」のことです。きまりのない複数の音の響きと単音の響きの違いを感じ取れるような工夫をしましょう。楽器を用意する活動になります。時間をかけずにやるために、準備やセッティングを工夫してみましょう！



### 音の重なりを感じよう

さあ、できたリズムを鍵盤ハーモニカで吹いてみましょう！今日の日直に演奏してもらいますよ！リズムは合っていましたか？さあ、みんなは何の音だったかを、自分で演奏して当ててくださいね！同じ音で演奏できたらどんな風に聞こえるかな？



よーし！今日は日直だ！みんなのまえでオルガンを弾けるぞー！今日は「ド」の音で演奏してみよう。みんな分かるかなあ？

まず、先生の指定した音で、鍵盤ハーモニカを使ってこのリズムを演奏できるようにしておくことが前提になります。この活動では、みんなの前で演奏（オルガンがいいと思います）する児童には、あえて音を指定せずに演奏させてみます。他の児童は音を聞いて何の音かを探ります。クラス全員の音がそろうまで何回か繰り返してみます。聞いて分かる子もいれば、試行錯誤を繰り返す子もいるかもしれません。雑音のように、いろいろな音が混ざっている段階から、音が1つに限定されて、音の響きが整っていく段階を感じるのも面白いです。

## 常時活動 ⑫

音楽のもと

### 音の重なり 和声の響き

〈リズム・問いと答え〉

〈縦と横の関係〉

音の重なりや和音を感じ取れるような常時活動を工夫してみよう！

前回の「音の重なり」では感じ取れなかった、和声的な音の響きの美しさを感じ取れるような活動にしていきます。音が重なり合うことで生まれる響きのよさや美しさを感じ取れるような工夫をしましょう。前回同様、楽器を用意する活動になります。時間をかけずにやるために、準備やセッティングを工夫してみましょう！



### 美しい音の重なりを感じよう

さあ、できたリズムを鍵盤ハーモニカで吹いてみましょう！今日は、二人で別々の音を演奏してもらいますよ！リズムは合っていましたか？さあ、違う音を演奏するけれども、二人で一緒に演奏できたらどんな風に聞こえるかな？



よーし！どうなるか楽しみだなあ！私は「ド」の音で演奏するから、あなたは「ミ」で演奏してね。せーの！



お、2つの音が重なったぞ！まえにたくさんの音が重なったときよりきれいな感じに聞こえるね！

はじめは、先生が音を指定して演奏させてもいいと思います。慣れてきたら、児童が自分たちで音を選んだり、ランダムに音を選択したり、1つの音だけ決めてもう一つの音を自分たちで考えたりするなど、2つの音の重なりによって生み出される、美しい響きを感じ取れる活動にしていけるといいと思います。高学年では、段階的に3つの音の重なりまで持って行けると面白いかもしれません。最後はグループ分けをして全体で演奏してみましょう。

## 常時活動 ⑬

音楽のもと

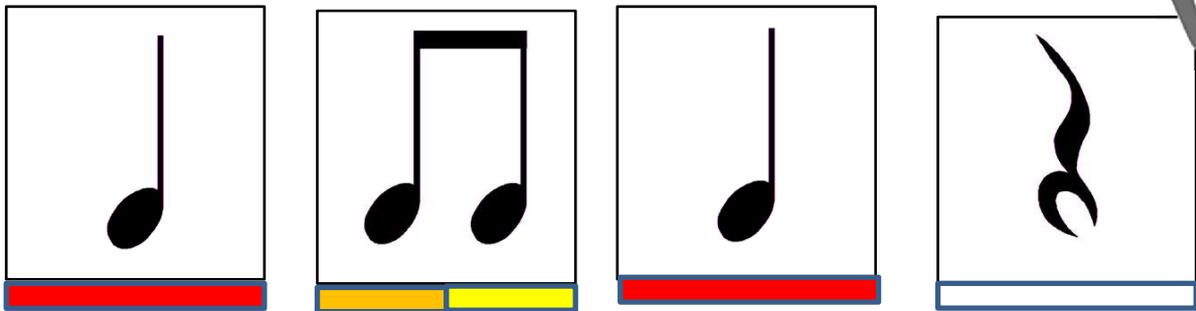
# リズム

## フレーズ・音符

〈音色・強弱〉

音の長さを意識して  
常時活動を工夫してみましょう！

音符には長さがあります。カードを使いながら音符の長さを意識できるようにしていきましょう。



リズムカードの下を見てください。音の長さを表した色を塗りました。音符には長さがあるってきちんと伸ばす意識が大切なんですよ。色が塗ってないカードもありますね。休符のカードです。休符は音が出ません。だから色はぬってありません。意識して手拍子しましょう！



手拍子から少し離れてみましょう。手拍子だと音がすぐに消えてしまうので、音の長さがわかりにくいからです。音符の長さの分だけオルガンの音を出してみましょう。日直など児童の代表がオルガンで弾いてみます。音は先生が指定します。単音でかまいません。気をつけることは「音の長さ」です。拍の最後まで音がのびていることが大切です。しっかりのびていることを確認しましょう。他の児童は鍵盤ハーモニカなどを用意して実際に音を伸ばしてみましょう。



今日は木琴を使ってやってみよう！木琴は音がのびない楽器ですよ。音がのびない楽器でやってみると、どんな感じになるかな？みんなで考えてみよう！

共通事項の  
「音色」が意識  
できます。



# 常時活動 ⑭

音楽のもと

## リズム・音符 〈拍の流れ〉

2拍分のリズムづくりに  
挑戦しよう！

二分音符や八分音符が入るリズムを作る時は2拍分の長さのリズムで行います。ある程度パターン化することで子どもたちに読み方を教えることが重要です。



「タアアー（ターアー）」と読ませます。長さを意識するために手拍子をするときは2拍分手を離さないようにするとよいようです。



初めの組み合わせは「ンタ（ツタ）」、次は「タッ」と読ませます。八分音符は組み合わせ方によって読み方が変わります。これを教えます。



### 2拍のリズムパターン

最後が休符になるパターンは除外。  
2拍分なので休符無も作りませんでした。



タアッタ（ターッタ）



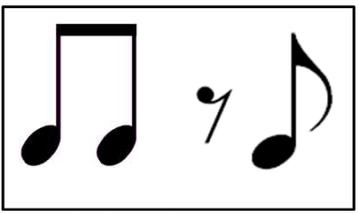
ンタタア（ンタター）



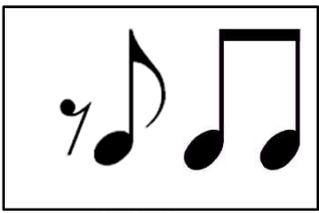
タッタア（タッター）



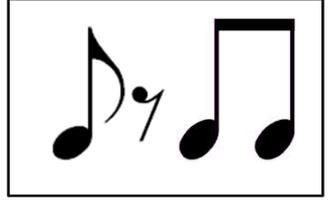
タタアタ（タタータ）



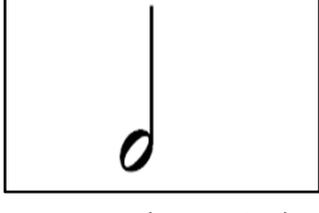
タタッタ



ンタタタ



タッタタ



タアアー（ターアー）

## 常時活動 ⑮

音楽のもと

# フレーズ

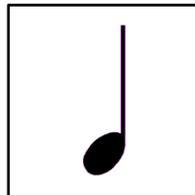
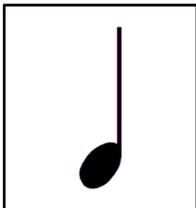
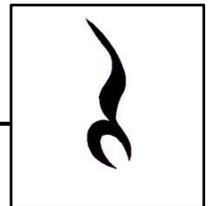
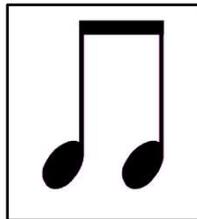
〈リズム・旋律〉

「音高」を意識したリズム遊びに  
発展させよう！

まずは一本の線の引き、その線の上下にカードを配置  
します。もちろんカードを引いた人が並べるととても  
盛り上がります！これを「音高」としてとらえます。



上の音符は頭の上で、下の音符は  
おなかの前で手をたたきましょう。



次に、音を2つ選んであ  
てはめてみましょう。例  
えば「ラ」「シ」でもい  
いですし、「ド」「レ」  
でもかまいません。その  
時、音階の下にくる音を  
線の下で、音階の上  
になる音は線の上の音  
符にあてはめるようにし  
て「音の高さ」を意識し  
てみましょう。



音をあてはめたら、手拍子・  
階名唱・さらにリコーダーや  
鍵盤ハーモニカなどでの演奏、  
と徐々に演奏する方向へとつ  
なげていくと効果的です。八  
分音符や八分休符が入った  
カードだと難しいので、難易  
度を考慮して、児童の実態に  
合わせた活動をスムーズに行  
えるようにしてください。



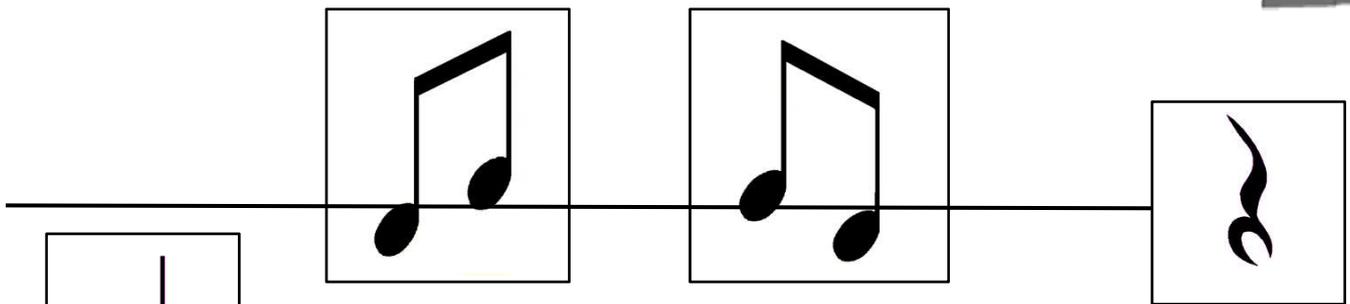
## 常時活動 ⑩

音楽のもと

旋律・フレーズ  
〈リズム〉

八分音符の高さを変えて  
バリエーションを広げよう！

活動は同じですが、今回は新しいカードを追加します。  
上下に音譜の位置をずらした八分音符のカードを準備  
したのでそれを使ってみます。



いままでの八分音符と、どこか違うのが分かりますか？その通り！音符の位置がズれていますね！今日はそのズれている部分を意識してみよう。音符が上の時は手を頭の上で、音符が下の時は手を胸の前で手拍子をしてみよう！

八分音符がずれてると手拍子がとっても忙しくて大変だねえ！もっとゆっくりやるとできるかもしれないなあ…



八分音符のカードで音がずれているカードを使う場合、ズレが小さく分かりづらいかもかもしれません。音符の位置がしたになっているのか上になっているのかを確認してからリズムうちをすることも必要かもしれません。また、リズムの速度をゆっくりにするとできる児童も増えるかもしれません。〔共通事項〕の速度を意識することも可能かもしれません。

## 常時活動 ⑪

音楽のもと

### 和声の響き 縦と横の関係 〈音の重なり〉

和音の響きを感じて  
音の重なりをつくろう！

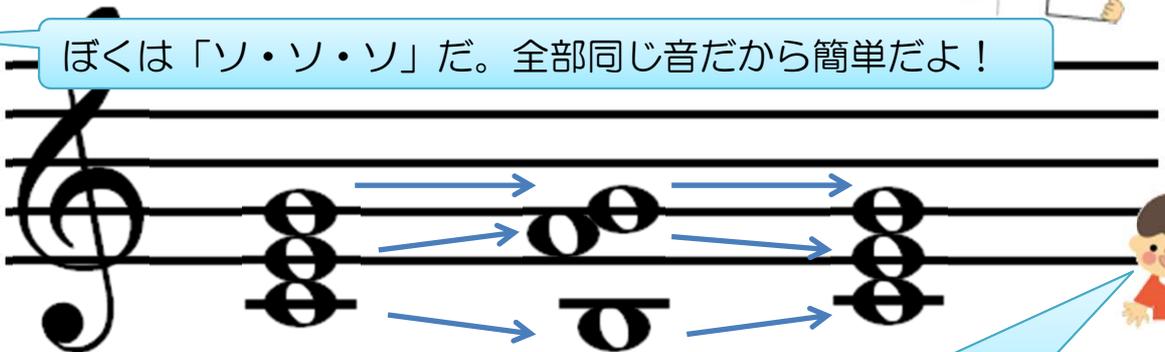
3つの音を重ねて和音をつくります。和音の仕組みについて簡単に理解したうえで、和音を進行させることで音の響きの美しさや変化を感じ取れるような活動を展開してみます。難しい内容をいかにやさしく分かりやすく説明するかがポイントです。説明はさらっと、音を「出す、感じる」をメインに考えてみてください。



今日は3つ重なった音符を、一人が1つ担当して演奏してもらいますよ！一人でやったときと二人、三人と増やしていったらどうなるか比べてみましょう。さあできるかな？



ぼくは「ソ・ソ・ソ」だ。全部同じ音だから簡単だよ！



ぼくは「ド・シ・ド」だ。



私は「ミ・ファ・ミ」。



和音の下の音から音を1つずつ分担します。一人ずつ演奏していくと、下の子はさがってもどる音の動きをしています。真ん中の子は上がって戻る動きをしています。上の子はずっと同じ音を演奏しています。最後にみんなで合わせると和音の響きを感じ取ることができます。みんな違う動きをしていることと、音の響きが変わることを縦と横の動きを意識します。黒板に音符などを提示して視覚的に分かるようにしておくと思えます。

# 常時活動 ⑱

音楽のもと

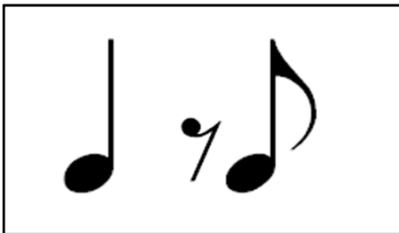
## 拍の流れ リズム・音符 〈フレーズ〉

「語感」を意識したリズム遊びに  
発展させよう！

八分音符・休符が入ったリズムを活用して、言葉をあて  
はめます。今回はテーマを決めない方が自由な発想になり  
そうです。擬態語や擬声語、何でもいいでしょう。

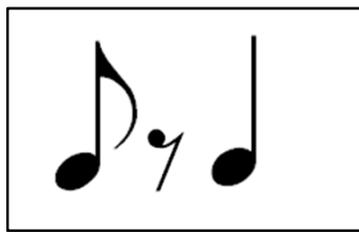


### スーパー名前遊び



タアッタ (ターッタ)

そーっと  
ずーっと



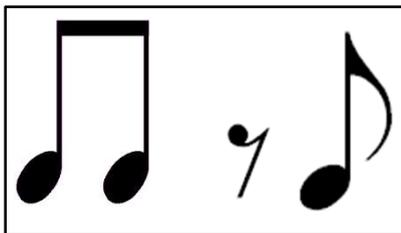
タッタア (タッター)

ヤッター  
サッカー  
ピッチャー



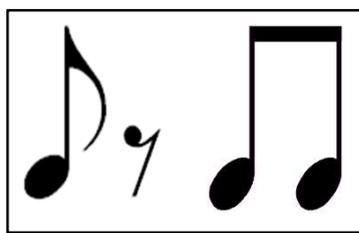
タタアタ (タタータ)

スカート  
スケート  
スポーツ



タタッタ

ロケット  
ポケット  
ロボット



タッタタ

ばっさり  
どっかん  
ぴったり

初めに休符が入った  
リズムだと作れな  
かったり、思いつく  
ものが無かったりす  
ることも考えられま  
す。作り出そうと  
考えることも重要で  
す。あまり時間をか  
けずあきらめること  
も視野に入れましょ  
う。

# 常時活動 ①9

音楽のもと

## 問いと答え 反復 〈変化〉

リズムカードを取り入れて「語感」を意識したリズム遊びをしよう

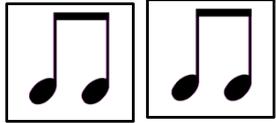
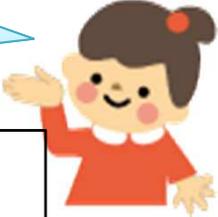
今回は児童にテーマを与えます。例えば「今日の給食で出た物は？」「前の授業は？」でもいいです。その言葉に当てはまるリズムをカードで作ります。



### テーマを決めたスーパー名前遊び

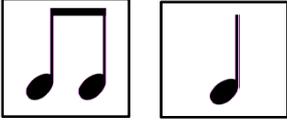
さんすう！

コンソメスープ！



「さんすう」は「さんすー」でこれでもいいかな？

みそラーメン！



みそラーメンはこっちのほうがいいんじゃないの？



子どもたちから様々な言葉が飛び出してきたとき、それにリズムをあてはめる活動はとっても盛り上がりまます。「X」のように1拍に2つの言葉を入れてリズムを作ることも認め、たくさんあてはめてみましょう。

# 常時活動 ⑳



## 変化

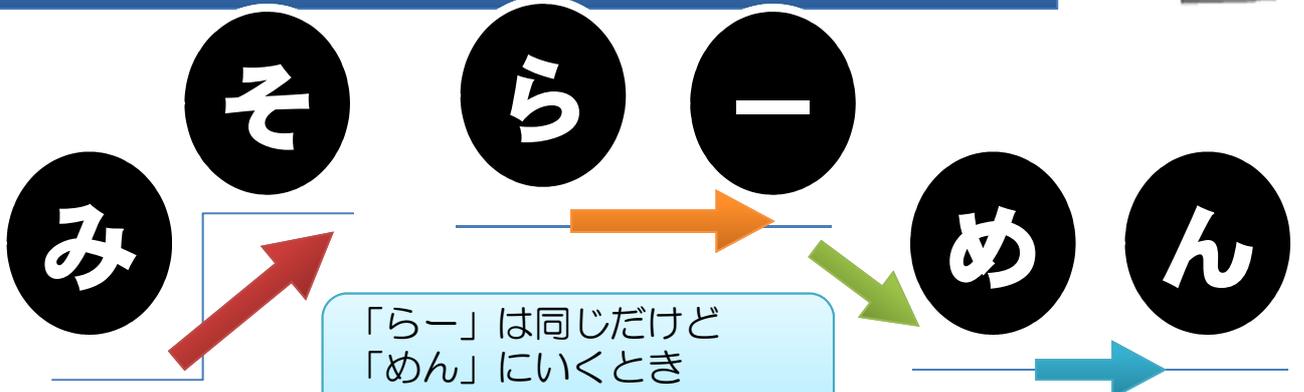
フレーズ・旋律  
〈音階や調・音符〉

語感を生かしたふしづくりを  
しよう！

先ほどの「みそラーメン」を、イントネーションをもとにして  
音の高さに変換します



「イントネーション」を「音高」にチェンジ！



「みそ」って  
上がってるね



じゃあ「さんすう」は  
どうすればいいのかなあ？



様々な言葉を例  
に出してイント  
ネーションを手  
掛かりに音の上  
がり下がり进行  
を考  
えてみます。そ  
の時、リズムに  
合わせて言葉の  
数を変えられる  
ようにします。



子どもたちの言葉のとらえを大切にしていなければならないので「さんすう」でも「さんすー」でもかまいません。同じ言葉からでも違ったふしがつまらぬことにつながります！

## 常時活動 ②1

音楽のもと

# 音符・リズム 〈拍の流れ〉

音譜の書き方を練習しよう！

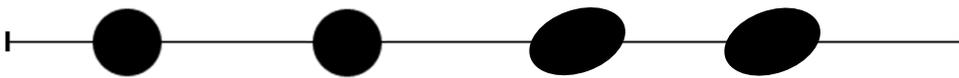
音符を書く第1段階は、2本の線の中に収まるような大きさの〇を書くことから始めましょう。慣れないうちは円でもかまいませんが、慣れてきたら円というよりも少し楕円形にして線からはみ出ないようにします。枠の中に等間隔で音譜を4つ並べられるようにしてみましょう。



線の間うまく書けたね！



音譜を書く第2段階は、1本の線の上にバランスよく収まるような大きさの〇を書くことから始めましょう。円の中心が線の上になるように書くよう指導しましょう。慣れないうちは不格好になるかもしれませんが、まずは音譜を書くことになれることが重要です。2本線の時と同じように、線の上に等間隔で音譜を4つ並べられるようにしてみましょう。



線の上にバランスよく書くのって難しいなあ！



繰り返しになりますが、書くことに慣れることが大事です！時間をかけて繰り返し取り組めるといいですね！ワークシートの隅にでも線を用意しておいて毎回書いてみるなど工夫して継続的に取り組んでいくことが大事だと思います。

# 常時活動 ㉓

音楽のもと

## リズム・音符

〈拍の流れ〉

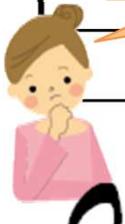
〈音階や調〉

五線譜の書き方に近い形で  
音符を書く練習をしてみよう！

音符を書く第3段階になりますので、そろそろ音符の形を整えられるようにしていきましょう。さらに、拍子に合わせて音符の数をそろえます。今回は4分の4拍子なのでマスの中には4個の音符をいれました。等間隔になるように幅を気をつけるように書くよう指導しましょう。



はじめは3本線の上で書きます。  
徐々にならしていきましょう。



五線譜に音符を書いてみましょう。  
まずは線の上の音符だけ



慣れたら線の間だけにするなど  
工夫してみるといいでしょう。

# 常時活動 ㉓

音楽のもと

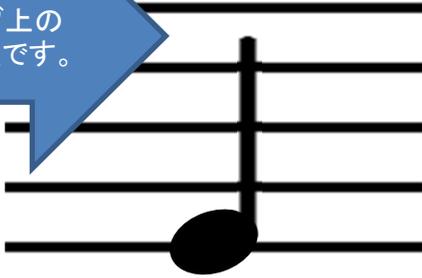
## リズム・音符

〈拍の流れ〉

〈音階や調〉

音符に線を引いてみよう！

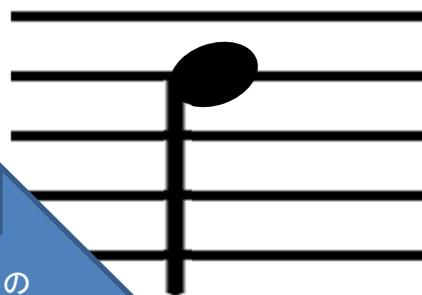
オクターブ上の  
「ミ」の位置です。



音譜についている線を「棒」とよびます。棒は「ラ」まで上向きで、「シ」になると下向きになります。なるべく五線譜からはみ出ない方向にしていこうとなります。棒の長さはオクターブの位置まで延ばせば大丈夫です。棒が下になるときは音符の左側に、棒が上に向くときは音符の右側に書くことになっています。



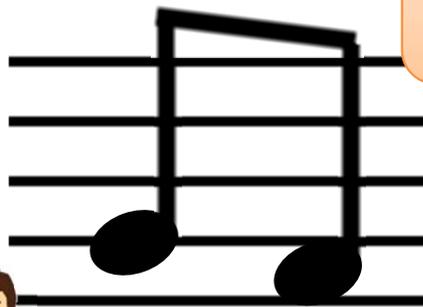
オクターブ下の  
「レ」の位置です。



音符がずれた場合には、棒の長さも変わります。それに合わせて上の線が斜めになると考えます。



八分音符を書くときは「旗」を書きます。一本の線で書いてかまいません。



八分音符を書くときは音符を二つ並べて上を線でつないでみましょう。印刷のように太くする必要はありません！



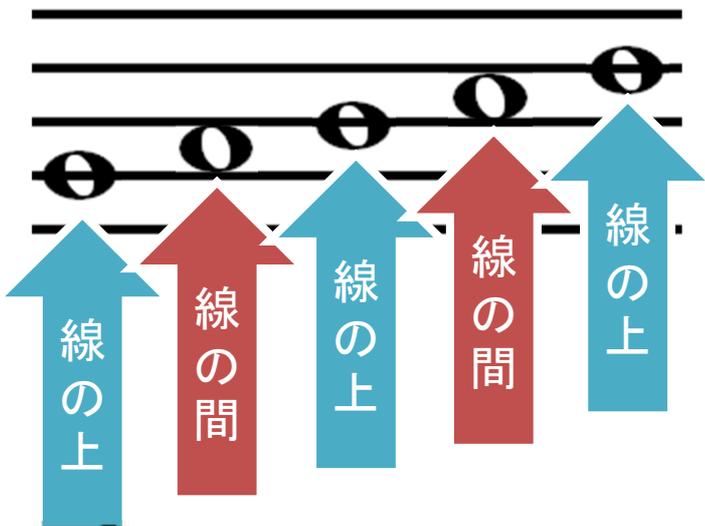
## 常時活動 ②④

音楽のもと

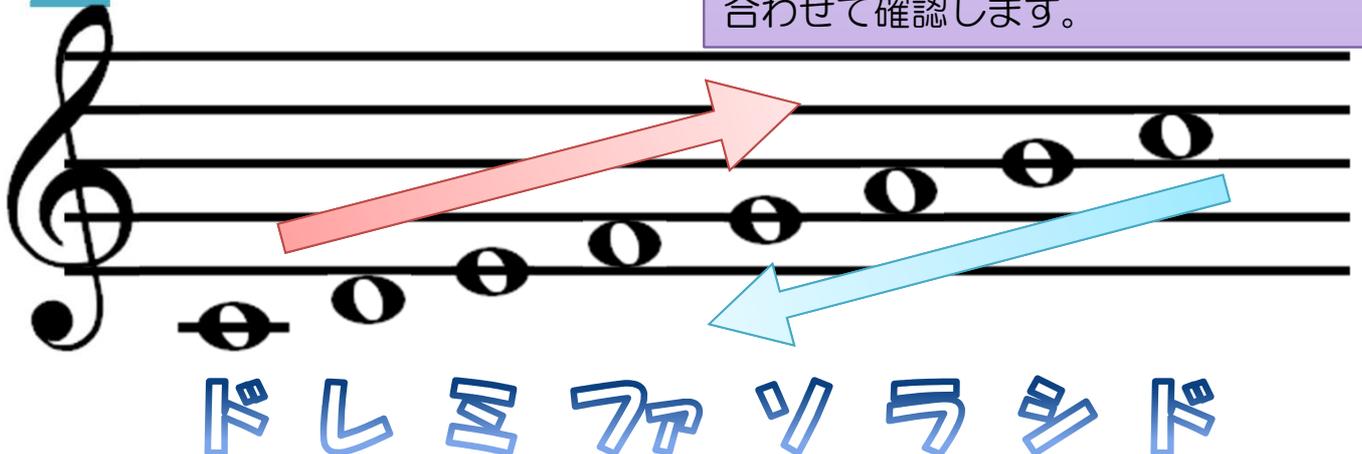
リズム・音符  
音階や調  
〈拍の流れ〉

音譜の読み方を練習しよう！

音符の読みも積み重ねていくことで身につけやすくなります。特に低学年から始めることが大事です。読み方を統一し、一貫性のある読み方をさせていくことが、音譜を読めるようになる一番の近道のような気がします。あくまでも参考例ですが、子どもたちと相談しながらいい方法を探り出していってください。



分かりやすくするために全音符を使いましたが音符の並び方を確認します。音符の並び方は「線の上・線の間…」の順で並んでいることを確認します。その上で「ハ長調」ならばドレミファソラシドの順に並んでいることを教えます。一番はじめのお団子が「ド」ですが、そこから数えて上に行くときの並び方は「ドレミファソラシド」ですが、音符が下に下がっていくときは逆に「ドシラソファミレド」で読むことも合わせて確認します。



# 常時活動 ②⑤

音楽のもと

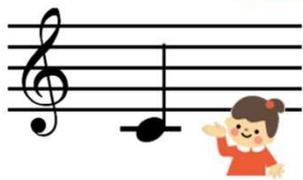
## 音符 音階や調 〈拍の流れ〉

ICTを活用して  
音譜の読み方を練習しよう！

音符の読みに慣れるにはICTも活用することをおすすめします。常時活動として取り組むのもいいですが、音楽室のパソコンを常に使えるようにしておき、休み時間や授業の始まる前などに操作するのもいいかもしれません。全体で行うならば、プロジェクターで提示することで、音符カードと同様の活動に出来ます。



この音なーんだ？



この音なーんだ？



低学年・中学年・高学年と、学年の発達段階に応じて内容を変えてあります。低学年は出てくる音符として「ド・レ・ミ」程度、中学年のリコーダー学習段階ではリコーダーの練習で使っている音、さらに音を増やした高学年と、ト音記号だけでなくヘ音記号も入れてみました。実際の活用段階ではデータの操作をして、自分で必要なカードを追加したり減らしたりしながら実態に合わせて活用していくことをおすすめします。分からなければ情報主任の先生やパソコンに少しだけ詳しい方に相談してみてください。

カードが次々出てきて  
おもしろい！画面が大きいから、  
分かりやすいなあ！



この音なーんだ？

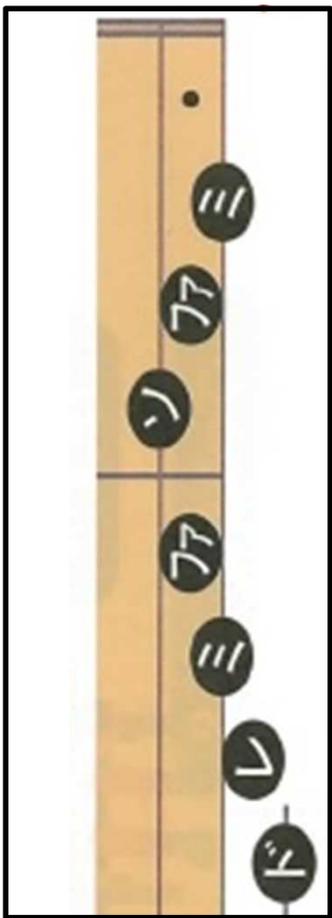
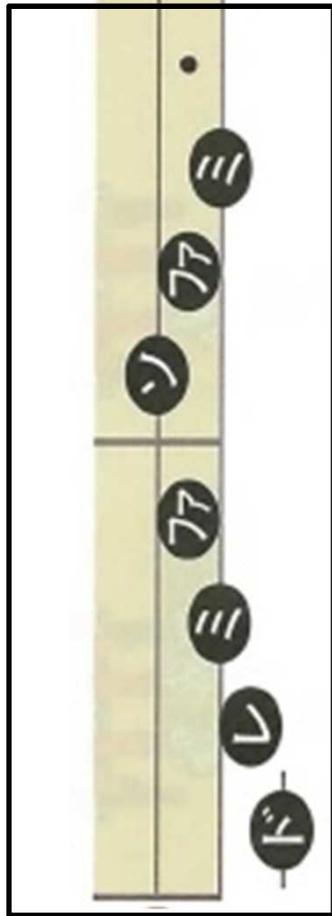


この音なーんだ？



# 音楽の仕組み（はんぱく①）

反復（連続して繰り返される反復）



同じリズムで同じ音程のフレーズを  
つづけてえんそうするかたち



れんぞく

はんぱく

## 連続する反復

# 音楽の仕組み (はんぱく②)

反復 (音楽のいくつかの場所では間を置いて繰り返される反復)

は しの う え で

た の **別のフレーズ**

み なが ら

み んな で お ど ろ う

う たい

*Fine* (おわり)

ほかのフレーズが出てきた後に

同じリズムで同じ音程のフレーズが

もういちど出てきてえんそうするかたち



あい ま

く

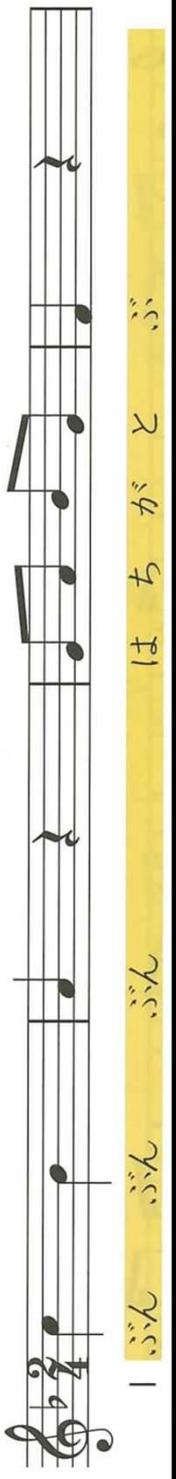
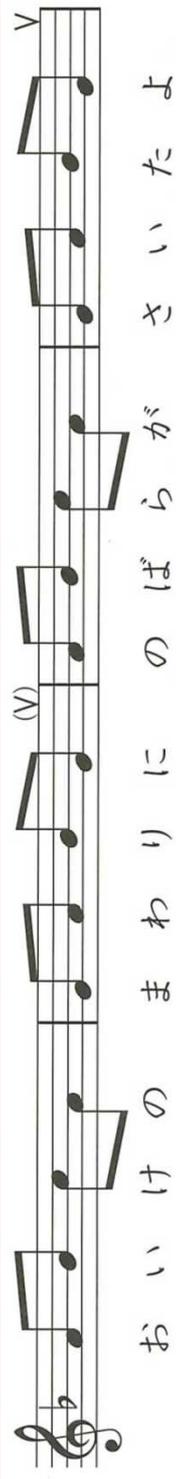
かえ

はん ぱく

## 合間を置いて繰り返される反復

# 音楽の仕組み (はんぷく③)

反復 (A-B-Aの三部形式による反復)

A	 <p>はちがと ぶん</p>
別のフレーズ B	 <p>おいけのまわりにのばらがさいたよ</p>
A	 <p>はちがと ぶん</p>

ほかのフレーズが出てきた後に  
同じリズムで同じ音程のフレーズが  
もういちど出てくる 曲のかたち



エー ビー エー さん ばい しき

## A-B-Aの三部形式

# と こと 音楽の仕組み (問いと答え①)

模倣 (Aに対して Aと答えるもの)

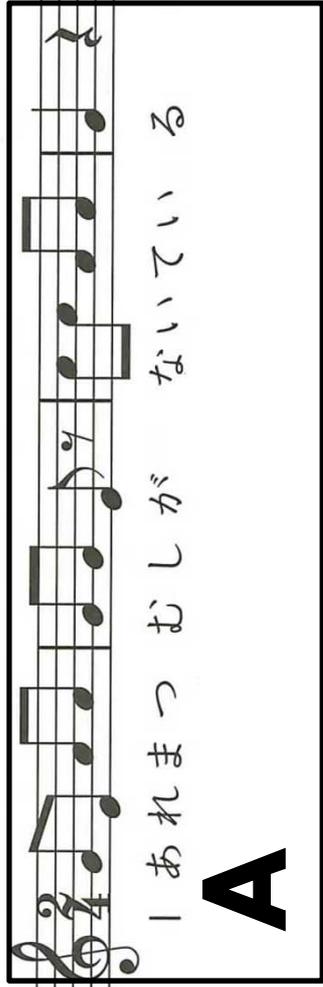
The diagram illustrates the structure of a question and answer in music. It shows two musical staves. The first staff, labeled 'A', contains the melody for 'やまびこさん' (Yamabiko-san). The second staff, also labeled 'A', contains the melody for 'やまびこ せーん' (Yamabiko se-en). The text 'やまびこ' and 'せーん' are written in large blue characters above the second staff. A red box highlights the second staff, and a red letter 'A' is placed to its left. Lines connect the characters 'やまびこ' and 'せーん' to the corresponding notes in the melody.

「アイアイ」「もりのくまさん」に出てくる  
「やまびこ」のように、よびかけに対して  
音楽で同じように答えるかたち

も ほう  
模倣 (まねすること)

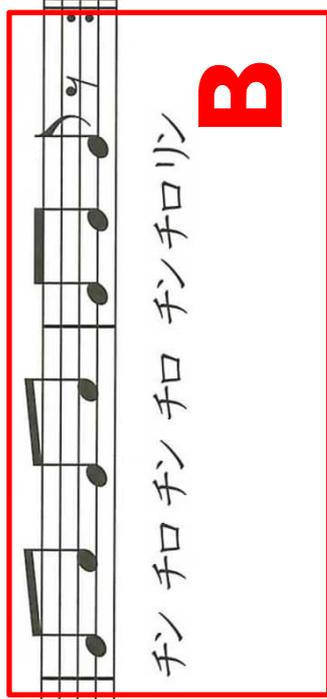
# と こと 音楽の仕組み (問いと答え②)

対照 (Aに対して BやCと答えるもの)



A

「あれまっむしが ないてい る」



B

チンチロチロ チンチロリン



「あれまっむしが  
ないている」



「チンチロ  
チンチロ  
チンチロリン」



ひとつのフレーズに対して  
違ったふしで答えるようにえんそうするかたち

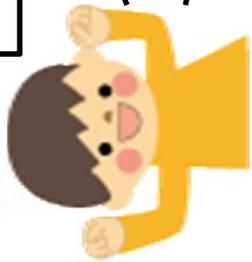
たいしょう

## 対照 (ちがうふしで答える)

# と こと 音楽の仕組み (問いと答え③)

合いの手 (長いAに対して短いBを入れるもの)

A musical score in G major (one sharp) and 2/4 time. The lyrics are: もりへ ゆきま しょう むす めさん. The score is divided into two sections: A (longer) and B (shorter). Section A is marked with a large 'A' and a bracket. Section B is marked with a large 'B' and a red box. The lyrics under section B are: ア ハ ハ.



「森へ 行きますよ  
むすめさん」



「ア ハ ハ」

ひとつの長いフリーズの間にはさんで  
かけ声のようにえんそうする短いふしのこと



あ と

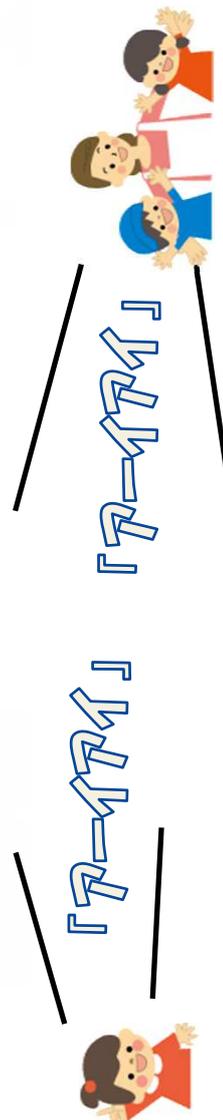
## 合いの手 (曲の調子をととのえる短いふし)

# と 音楽の仕組み (問いと答え④)

A 呼びかけ (一人に対して 大勢で答えるもの)

A musical staff in 4/4 time with a treble clef. The first measure contains a quarter note G4. The second measure contains a quarter note A4. The third measure contains a quarter note B4. The fourth measure contains a quarter note C5. A red box highlights the second and third measures, with a red letter 'B' above it.

1・2 あーい あい あーい あい あーい あい



ひとつのフレーズに対して  
みんなで答えるようにえんそうするかたち

よ 呼びかけ (みんなで答える)

# 音楽の仕組み (変化)

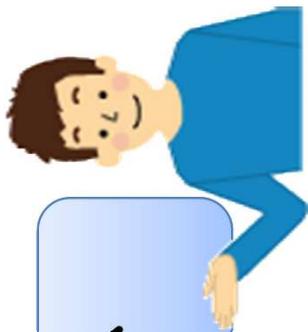
音楽の要素や音楽の仕組みのかわり合いが変わること起こる曲の前半部分は同じです。

はーるのおがわはさらさら  
きーしのすみれやれんげの

いくよ  
はなに

曲のさいごのところだけが音の高さがちがいます。

音楽の中で、楽器の音色や音ぶのしゅるい、音の高さなどのちがいに気付くこと



へん か

よう そ けいしき か

## 変化 (音楽の要素や形式が変わること)

# 音楽の仕組み (音楽の縦と横の関係)

音の重なり方や 音楽における時間的な流れとのかかわり合い

茶色の小びん

The image shows a musical score for '茶色の小びん' (Brown Little Bottle) in 4/4 time. It consists of four staves. The first two staves are grouped under a bracket labeled 'A'. The last two staves are grouped under a bracket labeled 'B'. A red box highlights the notes in the third staff, which are the notes of part B. The notes in the first staff are treble clef, and the notes in the second and fourth staves are bass clef. The notes in the third staff are treble clef.

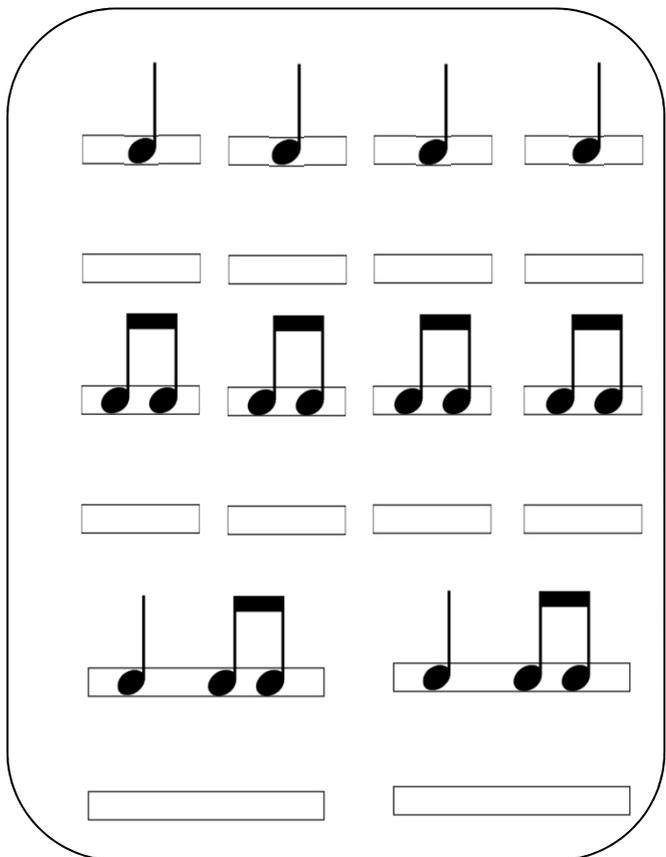
音楽の中で、(A)パートとパートによる音の重なり  
(B)それぞれのパートの音の流れ のかわりや  
はたらきに気付くこと



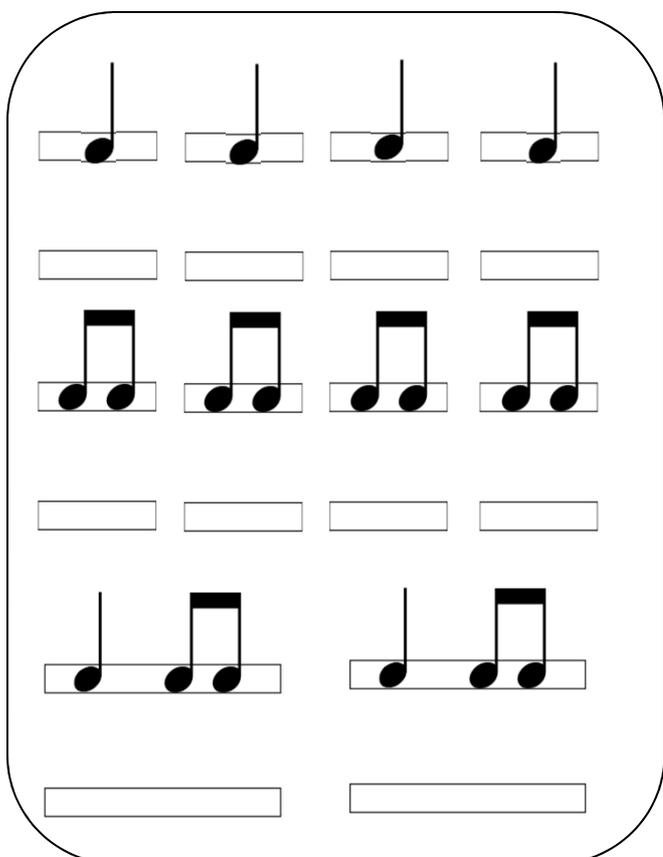
音楽の縦と横の関係

# 音が書こう! No.1

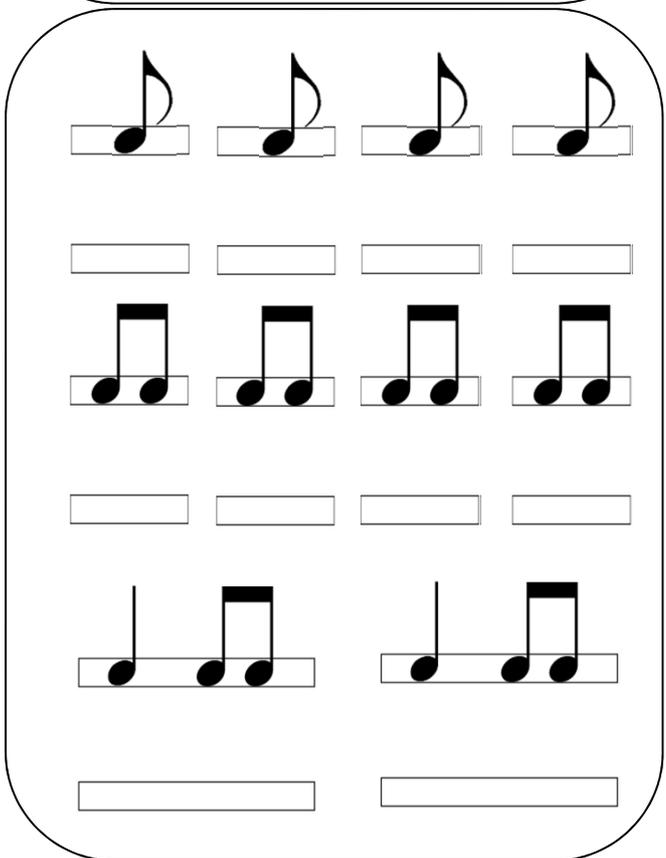
はみ出さないように  
わくの中心に玉を書こう!



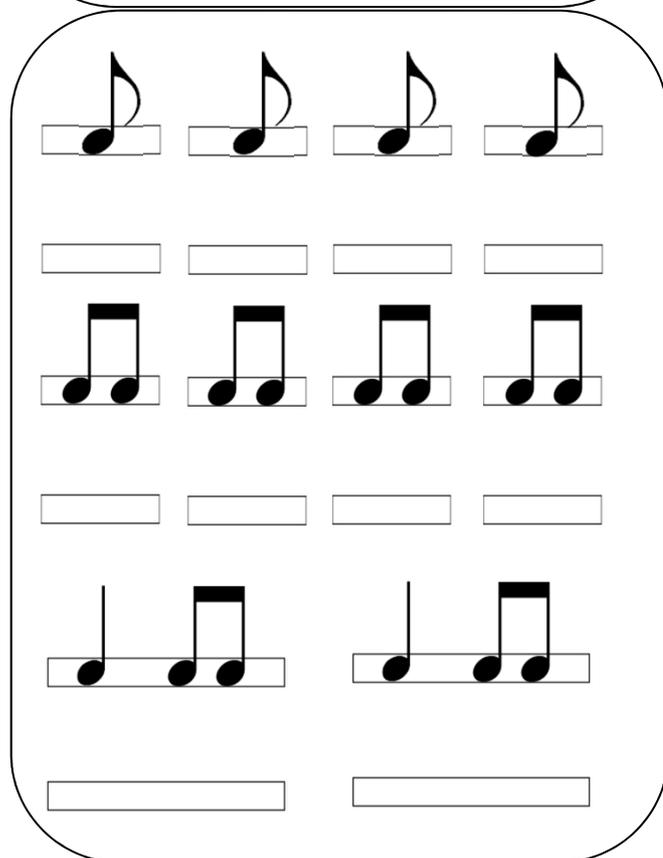
Box 1: Musical notation practice. Row 1: Four quarter notes on a staff. Row 2: Four empty rectangular boxes. Row 3: Four pairs of eighth notes on a staff. Row 4: Four empty rectangular boxes. Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff. Row 6: Two empty rectangular boxes.



Box 2: Musical notation practice. Row 1: Four quarter notes on a staff. Row 2: Four empty rectangular boxes. Row 3: Four pairs of eighth notes on a staff. Row 4: Four empty rectangular boxes. Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff. Row 6: Two empty rectangular boxes.



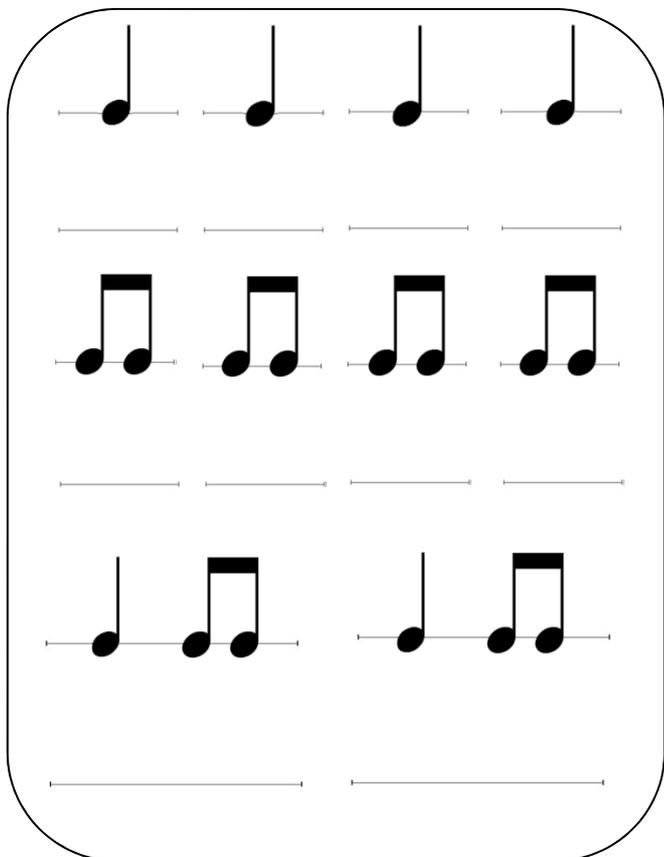
Box 3: Musical notation practice. Row 1: Four eighth notes on a staff. Row 2: Four empty rectangular boxes. Row 3: Four pairs of eighth notes on a staff. Row 4: Four empty rectangular boxes. Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff. Row 6: Two empty rectangular boxes.



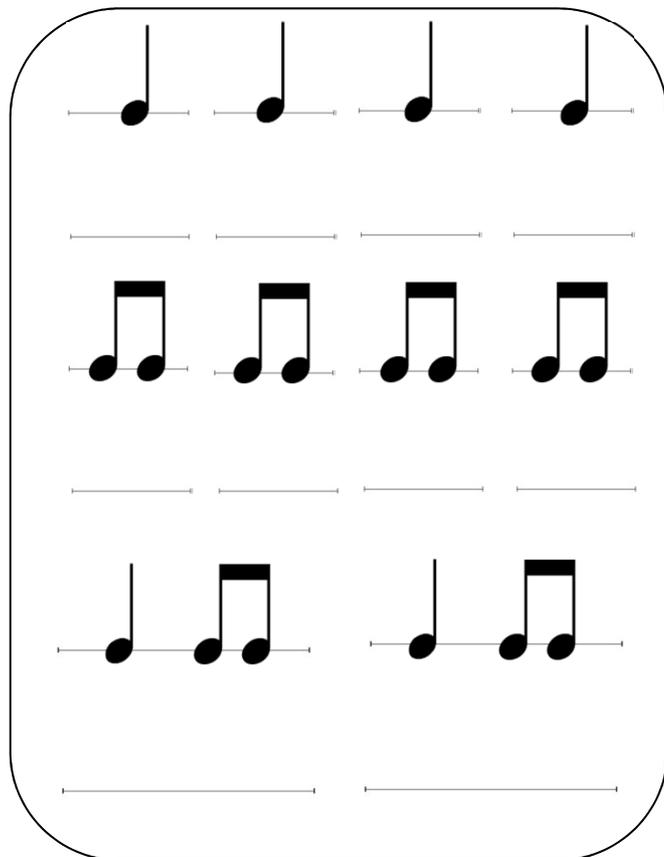
Box 4: Musical notation practice. Row 1: Four eighth notes on a staff. Row 2: Four empty rectangular boxes. Row 3: Four pairs of eighth notes on a staff. Row 4: Four empty rectangular boxes. Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff. Row 6: Two empty rectangular boxes.

# 音びきを書こう！ No.2

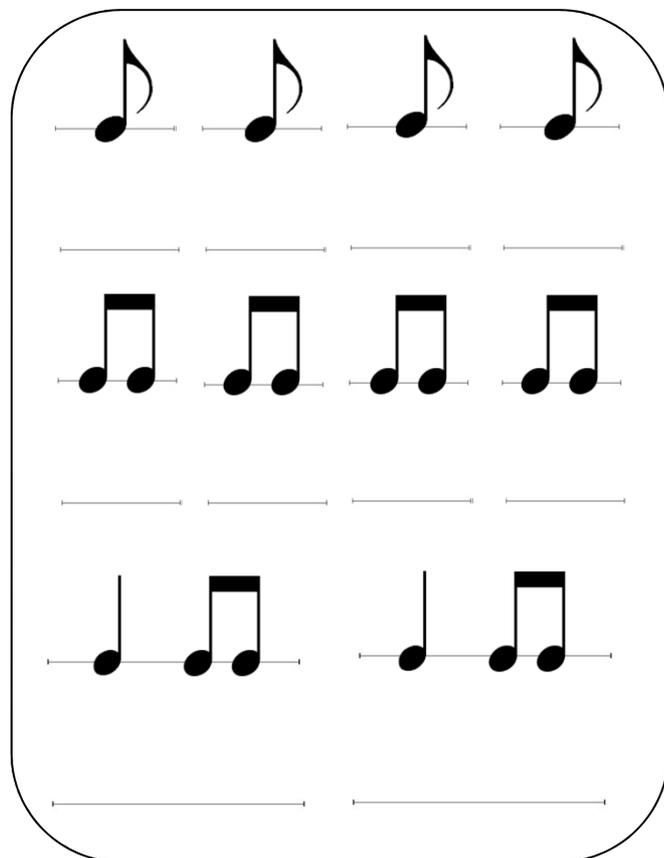
線の上にバランスよく  
玉をおいて音びきを書こう！



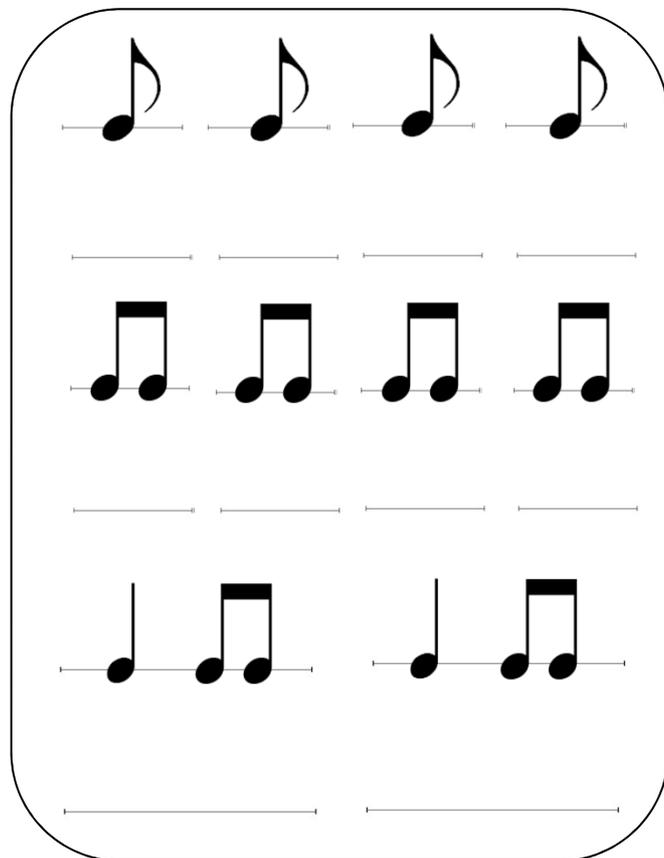
Box 1: Musical notation practice. It contains three rows of staves. The first row has four quarter notes. The second row has four pairs of eighth notes. The third row has two pairs of eighth notes, each pair starting with a quarter note. Below each row are two empty staves for practice.



Box 2: Musical notation practice. It contains three rows of staves. The first row has four quarter notes. The second row has four pairs of eighth notes. The third row has two pairs of eighth notes, each pair starting with a quarter note. Below each row are two empty staves for practice.



Box 3: Musical notation practice. It contains three rows of staves. The first row has four eighth notes. The second row has four pairs of eighth notes. The third row has two pairs of eighth notes, each pair starting with a quarter note. Below each row are two empty staves for practice.



Box 4: Musical notation practice. It contains three rows of staves. The first row has four eighth notes. The second row has four pairs of eighth notes. The third row has two pairs of eighth notes, each pair starting with a quarter note. Below each row are two empty staves for practice.

# 音が書こう！ No.3

はみ出さないように  
わくの中心に玉を書こう！

Handwriting practice box 1 (top-left):

- Row 1: Four quarter notes on a staff.
- Row 2: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 3: Four circles on a staff.
- Row 4: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff.
- Row 6: Two empty rectangular boxes for tracing.

Handwriting practice box 2 (top-right):

- Row 1: Four quarter notes on a staff.
- Row 2: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 3: Four circles on a staff.
- Row 4: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff.
- Row 6: Two empty rectangular boxes for tracing.

Handwriting practice box 3 (bottom-left):

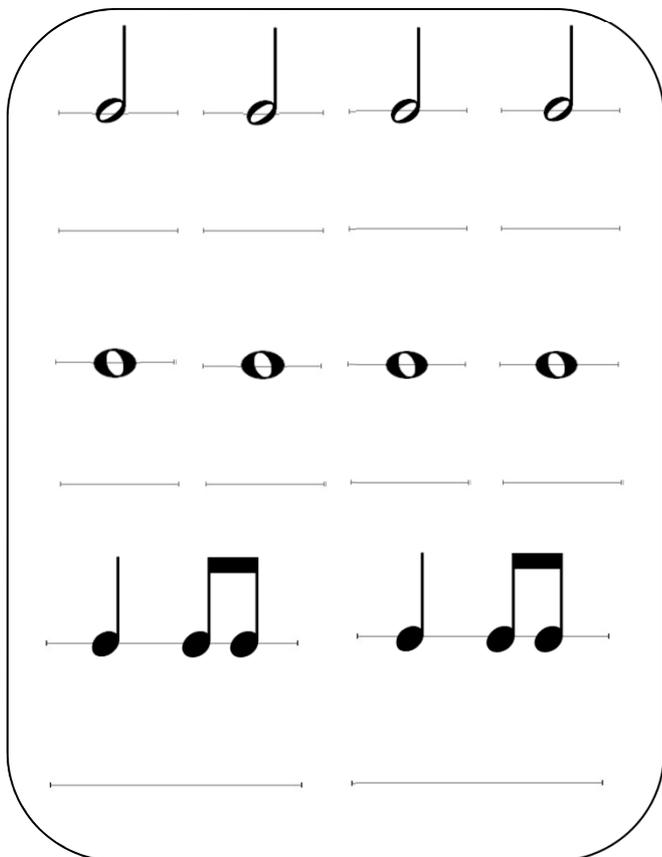
- Row 1: Four quarter notes on a staff.
- Row 2: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 3: Four circles on a staff.
- Row 4: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff.
- Row 6: Two empty rectangular boxes for tracing.

Handwriting practice box 4 (bottom-right):

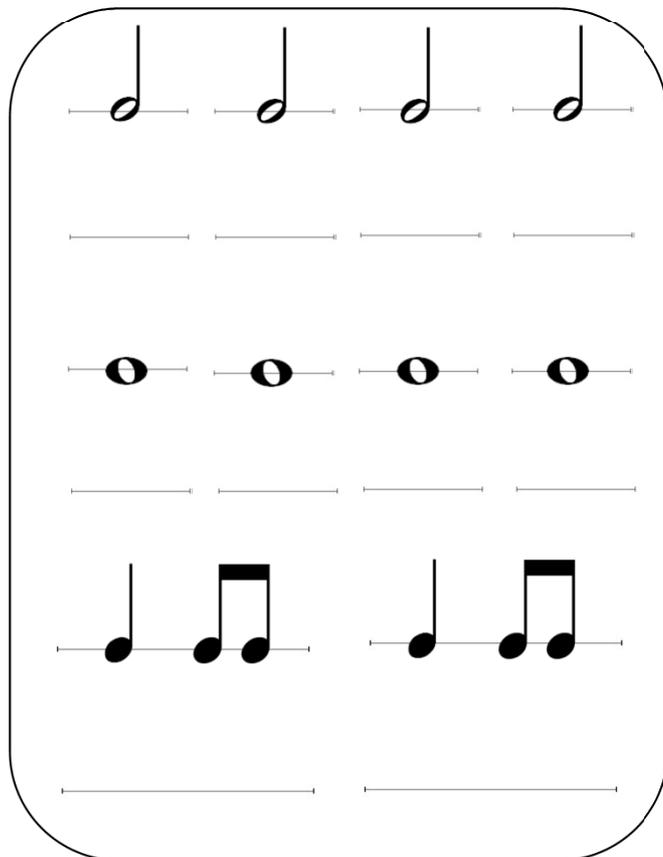
- Row 1: Four quarter notes on a staff.
- Row 2: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 3: Four circles on a staff.
- Row 4: Four empty rectangular boxes for tracing.
- Row 5: Two pairs of eighth notes on a staff.
- Row 6: Two empty rectangular boxes for tracing.

# 音びくを書こう！ No.4

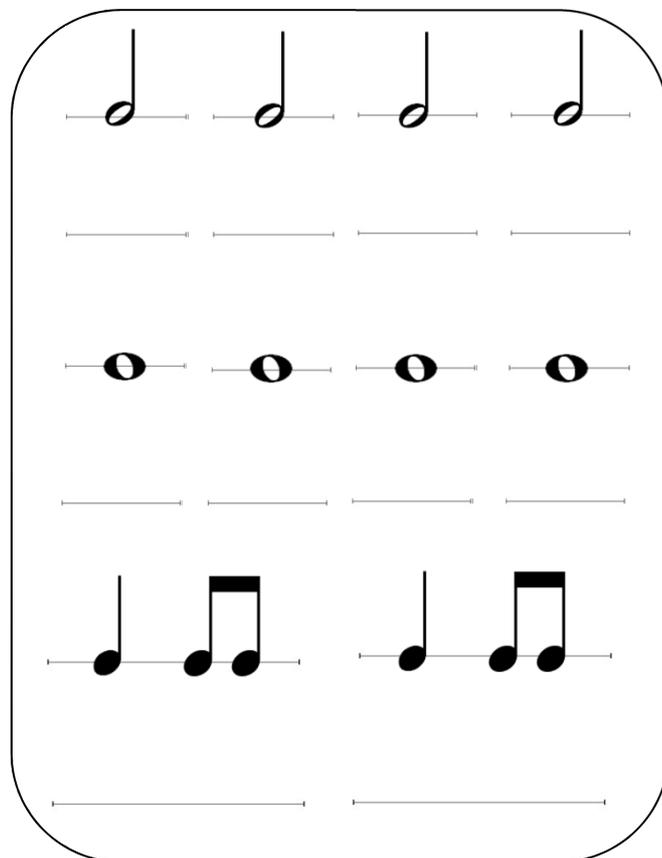
線の上にバランスよく  
玉をおいて音びくを書こう！



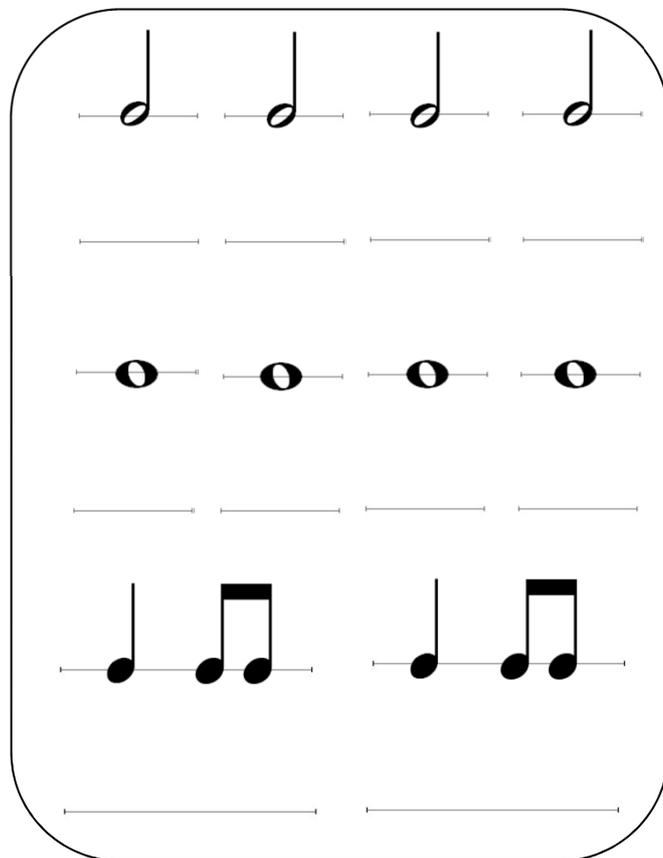
Box 1: Musical notation practice. It contains three rows of musical staves. The first row has four quarter notes on a line. The second row has four half notes on a line. The third row has two pairs of eighth notes on a line. Each row is followed by a blank staff for practice.



Box 2: Musical notation practice. It contains three rows of musical staves. The first row has four quarter notes on a line. The second row has four half notes on a line. The third row has two pairs of eighth notes on a line. Each row is followed by a blank staff for practice.



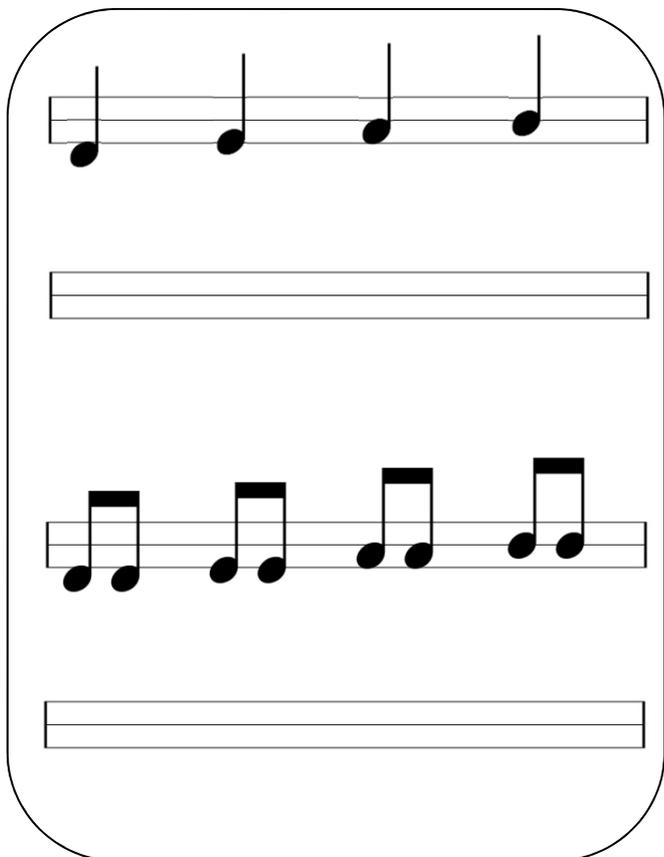
Box 3: Musical notation practice. It contains three rows of musical staves. The first row has four quarter notes on a line. The second row has four half notes on a line. The third row has two pairs of eighth notes on a line. Each row is followed by a blank staff for practice.



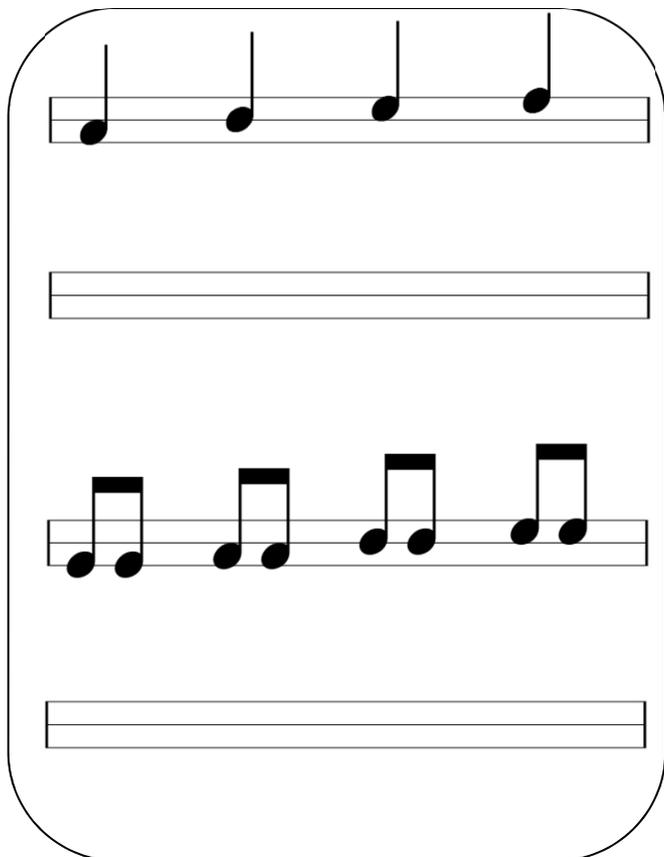
Box 4: Musical notation practice. It contains three rows of musical staves. The first row has four quarter notes on a line. The second row has four half notes on a line. The third row has two pairs of eighth notes on a line. Each row is followed by a blank staff for practice.

# 音ぷを書こう！ No.5

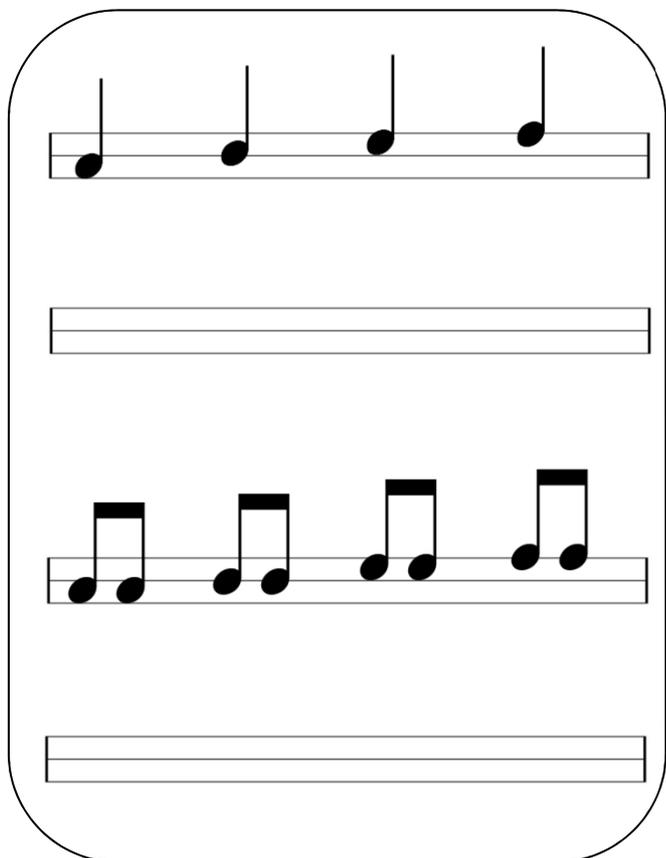
音ぷの位置に気を付けて  
バランスにも気を付けて！



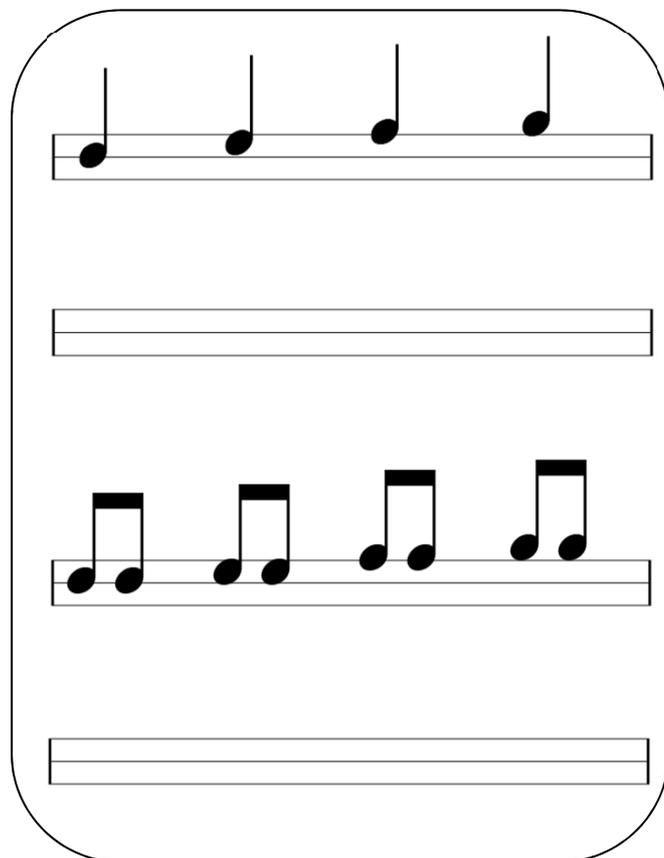
Box 1: A musical staff with four quarter notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff. Below that is another musical staff with four eighth notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff.



Box 2: A musical staff with four quarter notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff. Below that is another musical staff with four eighth notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff.



Box 3: A musical staff with four quarter notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff. Below that is another musical staff with four eighth notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff.



Box 4: A musical staff with four quarter notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff. Below that is another musical staff with four eighth notes (C, D, E, F) on a five-line staff. Below it is a blank staff.

# 音ぷを書こう！ No.6

スペースをバランスよく  
使って音ぷを書こう！

Four musical staves in 4/4 time. The first staff contains a melody: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter rest. The second staff is empty. The third staff contains a melody: quarter note G4, eighth note A4, eighth note B4, quarter note C5, quarter rest. The fourth staff is empty.

Four musical staves in 4/4 time. The first staff contains a melody: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter note D5. The second staff is empty. The third staff contains a melody: quarter note G4, eighth note A4, eighth note B4, quarter note C5, quarter note D5. The fourth staff is empty.

Four musical staves in 4/4 time. The first staff contains a melody: quarter note G4, quarter rest, quarter note A4, quarter note B4. The second staff is empty. The third staff contains a melody: quarter note G4, quarter rest, quarter note A4, eighth note B4, eighth note C5. The fourth staff is empty.

Four musical staves in 4/4 time. The first staff contains a melody: quarter rest, quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4. The second staff is empty. The third staff contains a melody: quarter rest, quarter note G4, eighth note A4, eighth note B4, quarter note C5. The fourth staff is empty.

# 音ぷを書こう！ No.7

スペースをバランスよく  
使って音ぷを書こう！

Musical staff exercise 1 (left column, top row). It consists of four staves in 4/4 time. The first staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The second staff is empty. The third staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, eighth note B4, eighth note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The fourth staff is empty.

Musical staff exercise 2 (right column, top row). It consists of four staves in 4/4 time. The first staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The second staff is empty. The third staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, eighth note B4, eighth note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The fourth staff is empty.

Musical staff exercise 3 (left column, bottom row). It consists of four staves in 4/4 time. The first staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The second staff is empty. The third staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, eighth note B4, eighth note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The fourth staff is empty.

Musical staff exercise 4 (right column, bottom row). It consists of four staves in 4/4 time. The first staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The second staff is empty. The third staff has a melody: quarter note G4, quarter note A4, eighth note B4, eighth note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4. The fourth staff is empty.

# ト音記号を書こう！

書き順に気を付けて  
どこまで線を引くか考えよう！

スタート

豆知識：「ソ」の線の上から始まる記号なので「ト音記号」といいます。ハニホヘト…ドレミファソ…ほらね！

# へ音記号を書こう！

書き順に注意して  
形をととのえて書こう！

玉を書いてスタート

点は最後

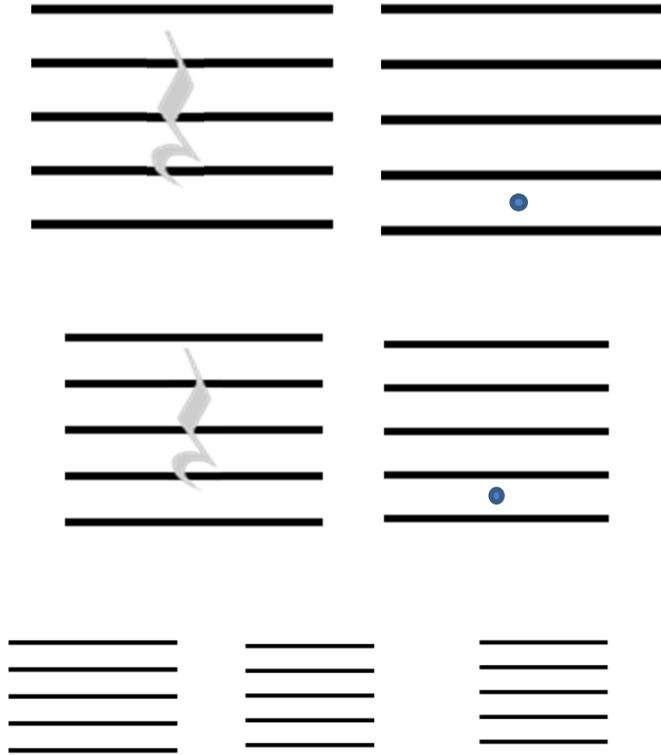
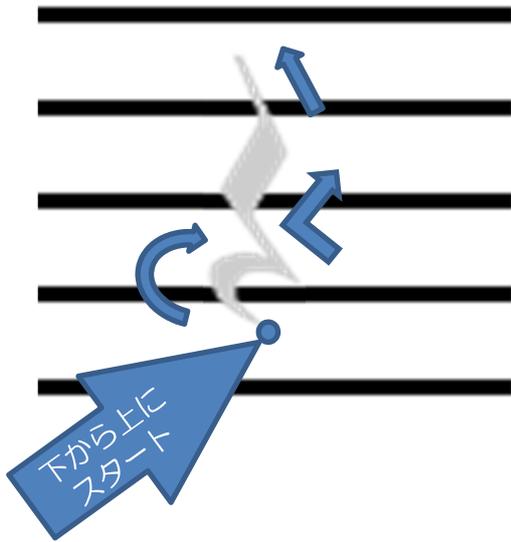
豆知識：「ファ」の線の上から始まる記号なので「へ音記号」といいます。最後に書く点も「ファ」の音をまたいでいます。ハニホヘ…ドレミファ…ほらね！

玉を書いてスタート

# 四分休符・八分休符 を書こう！

書き始める場所や書き順、  
大きさに注意して書こう！

## 四分休符



## 八分休符

